

2019年度（第3回）
学生生活調査報告書

公立大学法人

神戸市外国語大学

〈注記〉

1. 本調査は第3回目の調査である。本報告書の作成にあたっては単純集計を基礎として、必要に応じて第1回目及び第2回目調査との比較を行っている。
2. 本報告書におけるコースの定義
カリキュラムの規定上、国際関係学科の学生には国際コミュニケーションコース (ICC) を除き、コース選択が認められていない。本報告書では、国際関係学科のコースは、国際コミュニケーションコース (ICC) と国際関係学科 (コース選択なし) として表記する。
3. 以下の規則に従い集計している。
 - ① 各集計結果の百分率は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点第1位まで表示しているため、合計が100%にならない項目がある。
 - ② 平均は、特に断りがある場合を除き無回答・無効回答を除いた回答を対象とする。
4. 各項目の満足度を聞いた質問で、肯定的評価の比率とは「満足」「やや満足」を合計したものであり、否定的評価の比率とは「不満」「やや不満」の合計である。

はじめに

本調査は、本学学生你的生活状況や意識を把握し、学生支援の基礎資料とすることを目的として学生支援部会が3年ごとに実施しているものである。今回は2016年11月に実施した第2回調査に続く、第3回の調査(2019年11月実施)である。

設問は合計50項目であり、そこから学生生活全般の満足度に加えて、個々の取組等についても把握できるように設計した。具体的には、課外活動、留学、就職活動等である。また、カリキュラムについても設問を設けている。

この調査により、本学の学生生活の全体像が明らかになると共に、今後のカリキュラム構成等の一助になれば幸いである。

最後に、学生生活調査の実施に協力いただいた学生諸氏ならびに教職員、その他調査の関係者各位に厚くお礼申し上げます。

2021年 3月

学生支援部長 山口 治彦

目 次

| | |
|---------------------------------|----|
| 1 調査の概要 | 1 |
| 1.1 目的 | 1 |
| 1.2 調査方法 | 1 |
| 1.3 基本属性 | 3 |
| 2 調査結果 | 7 |
| 2.1 学生生活全体の状況 | 7 |
| 2.1.1 大学生活の考え方 | 7 |
| 2.1.2 学生生活の(主観的) 成果 | 12 |
| 2.2 個別活動(正課教育と学習環境) | 14 |
| 2.2.1 正課教育 | 14 |
| 2.2.2 図書館 | 14 |
| 2.2.3 学習のための施設(教室、自習スペース等) の満足度 | 16 |
| 2.2.4 情報機器 | 17 |
| 2.2.5 教員との交流 | 17 |
| 2.3 個別活動(課外活動) | 18 |
| 2.3.1 部活・サークル活動、ボランティア活動、語劇の状況 | 18 |
| 2.3.2 ボランティア活動の状況 | 19 |
| 2.4 個別活動(留学) | 21 |
| 2.4.1 留学の状況 | 21 |
| 2.4.2 留学の形態 | 22 |
| 2.5 個別活動(TOEIC、就職活動について) | 25 |
| 2.5.1 TOEIC | 25 |
| 2.5.2 1、2、3 年生の卒業後に希望する進路 | 26 |
| 2.6 個別活動(悩み) | 28 |
| 2.7 大学への要望・期待について | 30 |

1 調査の概要

1.1 目的

神戸市外国語大学では中期計画を定め、学生支援体制の充実を図ってきたところである。この調査は、学生の生活状況や意識などを把握し、学生支援のための基礎資料とすることを目的として実施した。今回は、2013年度（第1回）、2016年度（第2回）に続く、第3回目の調査である。

1.2 調査方法

1) 調査実施期間

2019年11月11日(月)～11月29日(金)

2) 調査対象

調査対象者は、2019年11月現在の本学学部・第2部在籍学生1,814人（休学者を除く）であり、全学生を対象者とした。

3) 実施方法

・1 学年と2 学年

1 学年と 2 学年については、専攻語学の授業において、担当教員が「学生生活調査票」と封入封筒を配布・回収した。

・3 学年と4 学年

3 学年と 4 学年については、ゼミ(研究指導、卒業論文指導)の授業において、担当教員が「学生生活調査票」と封入封筒を配布・回収した。

4) 回数数・回収率

上記調査期間中の回収数は1,302人分で、全体の回収率は71.8%であった。第1回調査(回収数1,124人、回収率60.7%)第2回調査(回収数1,236人、回収率65.6%)と比較すると、回収数・回収率ともに増加している。

学科別の回収率については、おおむね7割前後を確保することができたが、ロシア学科と第2部英米学科の回収率は70%を下回った。これに対して、イスパニア学科は77.1%、学部英米学科も73.5%と、比較的高い回収率を示している(表1-1)。

3学年以上の学科・コース別回収率には相当程度のばらつきが見られるが、ロシア学科法経商コース(84.6%)、イスパニア学科語学文学コース(78.4%)は、とくに高い回収率を記録した。逆に、第2部英米学科法経商コース(55.2%)、ロシア学科総合文化コース(59.5%)は、回収率が6割を下回る結果に終わった(表1-2)。

表1-1：学生生活調査実施状況一覧（学部・第2部、学科、学年）

| | 1 学年 | 2 学年 | 3 学年 | 4 学年 | 無効・無回答 | 合計 | 回収率 |
|--------|-------|-------|-------|-------|--------|--------|-------|
| 学部英米 | 118 | 103 | 96 | 99 | 0 | 416 | 73.5% |
| | 28.4% | 24.8% | 23.1% | 23.8% | 0.0% | 100.0% | |
| ロシア | 27 | 33 | 22 | 29 | 0 | 111 | 66.1% |
| | 24.3% | 29.7% | 19.8% | 26.1% | 0.0% | 100.0% | |
| 中国 | 41 | 41 | 28 | 40 | 0 | 150 | 71.8% |
| | 27.3% | 27.3% | 18.7% | 26.7% | 0.0% | 100.0% | |
| イスパニア | 41 | 31 | 25 | 38 | 0 | 135 | 77.1% |
| | 30.4% | 23.0% | 18.5% | 28.1% | 0.0% | 100.0% | |
| 国際関係 | 59 | 68 | 53 | 65 | 1 | 246 | 72.4% |
| | 24.0% | 27.6% | 21.5% | 26.4% | 0.4% | 100.0% | |
| 学部計 | 286 | 276 | 224 | 272 | 1 | 1059 | 72.6% |
| | 27.0% | 26.1% | 21.2% | 25.7% | 0.1% | 100.0% | |
| 第2部英米 | 78 | 51 | 50 | 60 | 0 | 239 | 67.1% |
| | 32.6% | 21.3% | 20.9% | 25.1% | 0.0% | 100.0% | |
| 無効・無回答 | 1 | 1 | 1 | 0 | 2 | 5 | N.A. |
| | 20.0% | 20.0% | 20.0% | 0.0% | 40.0% | 100.0% | |
| 合計 | 365 | 328 | 275 | 331 | 3 | 1302 | 71.8% |
| | 28.0% | 25.2% | 21.1% | 25.4% | 0.2% | 100.0% | |

表1-2：学生生活調査実施状況一覧（学科、コース、学年、3学年以上）

| 学部 | コース | 3 学年 | 4 学年 | 合計 | 回収率 |
|------|-------------|------|------|-----|-------|
| 学部英米 | 語学文学 | 18 | 41 | 59 | 74.7% |
| | 法経商 | 33 | 20 | 53 | 68.8% |
| | 総合文化 | 37 | 31 | 68 | 74.7% |
| | 国際コミュニケーション | 8 | 6 | 14 | 60.9% |
| | 無回答・無効 | 0 | 1 | 1 | N.A. |
| | 学科計 | 96 | 99 | 195 | 71.7% |
| ロシア | 語学文学 | 6 | 8 | 14 | 66.7% |
| | 法経商 | 5 | 6 | 11 | 84.6% |
| | 総合文化 | 11 | 14 | 25 | 59.5% |
| | 国際コミュニケーション | 0 | 1 | 1 | 50.0% |
| | 無回答・無効 | 0 | 0 | 0 | N.A. |
| | 学科計 | 22 | 29 | 51 | 65.4% |

| | | | | | |
|--------|-----------------|-----|-----|-----|-------|
| 中国 | 語学文学 | 6 | 11 | 17 | 65.4% |
| | 法経商 | 14 | 15 | 29 | 64.4% |
| | 総合文化 | 6 | 14 | 20 | 69.0% |
| | 国際コミュニケーション | 2 | 0 | 2 | 50.0% |
| | 無回答・無効 | 0 | 0 | 0 | N.A. |
| | 学科計 | 28 | 40 | 68 | 65.4% |
| イスパニア | 語学文学 | 9 | 20 | 29 | 78.4% |
| | 法経商 | 6 | 5 | 11 | 61.1% |
| | 総合文化 | 10 | 12 | 22 | 75.9% |
| | 国際コミュニケーション | 0 | 1 | 1 | 33.3% |
| | 無回答・無効 | 0 | 0 | 0 | N.A. |
| | 学科計 | 25 | 38 | 63 | 72.4% |
| 国際関係 | 国際関係学科(コース選択なし) | 50 | 63 | 113 | 72.4% |
| | 国際コミュニケーションコース | 2 | 2 | 4 | 80.0% |
| | 無回答・無効 | 1 | 0 | 1 | N.A. |
| | 学科計 | 53 | 65 | 118 | 73.3% |
| 学部計 | | 224 | 271 | 495 | 70.4% |
| 第2部英米 | 英語学・英語研究 | 10 | 22 | 32 | 60.4% |
| | 英語圏文化・文学 | 22 | 23 | 45 | 65.2% |
| | 法経商 | 17 | 15 | 32 | 55.2% |
| | 無回答・無効 | 1 | 0 | 1 | N.A. |
| | 学科計 | 50 | 60 | 110 | 61.1% |
| 無回答・無効 | | 1 | 0 | 1 | N.A. |
| 合計 | | 275 | 331 | 606 | 68.6% |

注 「無回答・無効」は、母数不明のため回収率が得られない(N.A.)。

1.3 基本属性

回答数による男女比は、男性 30.9%、女性 67.8%となっており、在籍学生の男女比とおおむね一致している(図1-1)。なお、今回の調査で選択肢に「無回答」を追加したところ、1.2%の解答者がこれを選択していることは、大学におけるジェンダー問題の取り組みに慎重な配慮が必要とされることを示唆している。

なお、学科・コースごとに回答数が異なることから、調査結果には回答数の多い学科・コースの影響が強く出る点に注意する必要がある。学科では学部英米学科、国際関係学科、第2部英米学科、コースでは総合文化コースの割合が高い(表1-3、表1-4)。

図 1 - 1 : 性別

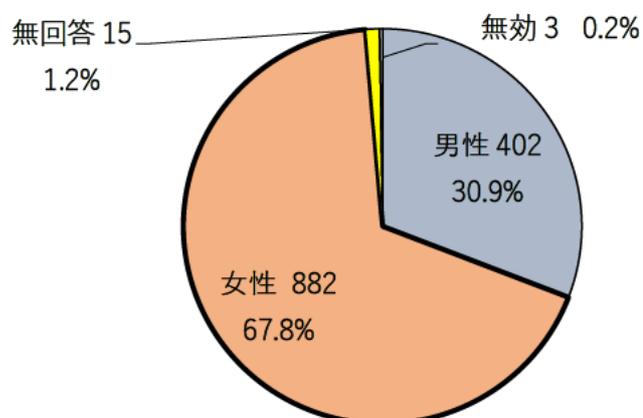


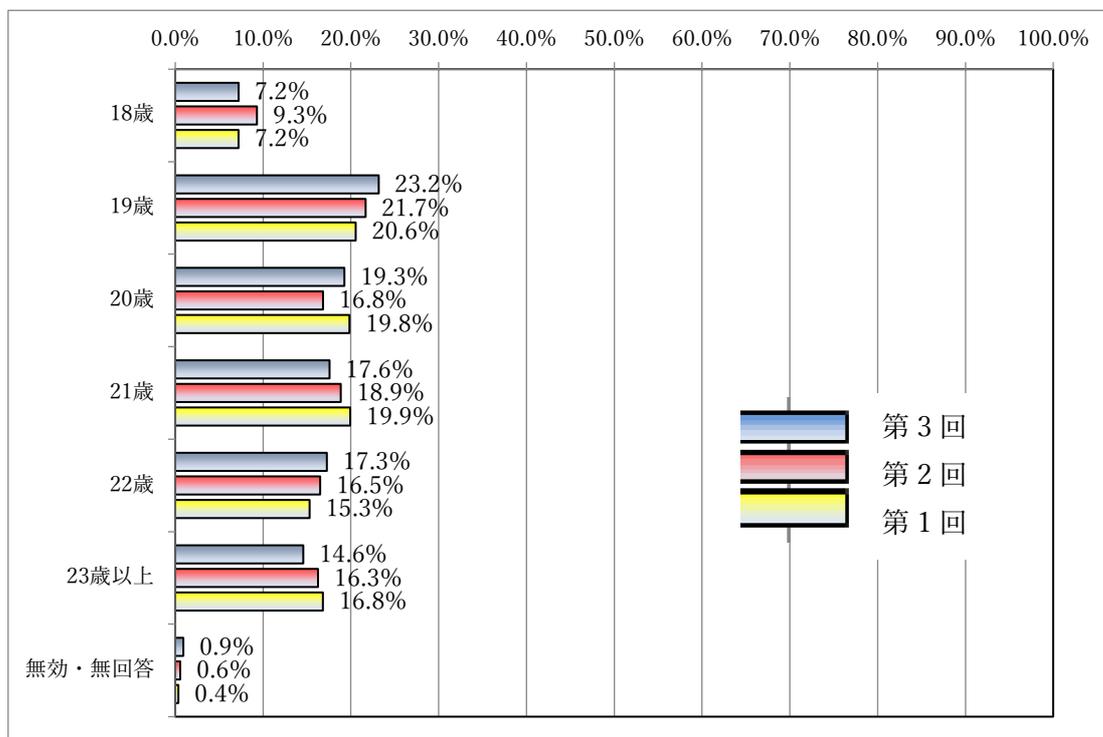
表 1 - 3 : 学科

| 学科 | 第1回 | | 第2回 | | 第3回 | |
|--------|-------|--------|-------|--------|-------|--------|
| | 回答数 | 構成比 | 回答数 | 構成比 | 回答数 | 構成比 |
| 学部英米 | 348 | 31.0% | 388 | 31.4% | 416 | 32.0% |
| ロシア | 87 | 7.7% | 92 | 7.4% | 111 | 8.5% |
| 中国 | 138 | 12.3% | 123 | 10.0% | 150 | 11.5% |
| イスパニア | 101 | 9.0% | 117 | 9.5% | 135 | 10.4% |
| 国際関係 | 211 | 18.8% | 251 | 20.3% | 246 | 18.9% |
| 第2部英米 | 236 | 21.0% | 259 | 21.0% | 239 | 18.4% |
| 無効・無回答 | 3 | 0.3% | 6 | 0.5% | 5 | 0.4% |
| 合計 | 1,124 | 100.0% | 1,236 | 100.0% | 1,302 | 100.0% |

表1-4：所属コース（3学年以上のみ）

| | | 第2回 | | 第3回 | |
|---------|-------------|-----|--------|-----|--------|
| | | 回答数 | 構成比 | 回答数 | 構成比 |
| 英米学科 | 語学文学 | 135 | 20.7% | 121 | 19.9% |
| ロシア学科 | 法経商(学部) | 97 | 14.9% | 104 | 17.1% |
| 中国学科 | 総合文化 | 134 | 20.5% | 135 | 22.2% |
| イスパニア学科 | 国際コミュニケーション | 21 | 3.2% | 19 | 3.1% |
| 国際関係学科 | 国際関係学科 | 126 | 19.3% | 113 | 18.6% |
| | 国際コミュニケーション | 4 | 0.6% | 4 | 0.7% |
| 第2部英米学科 | 英語学・英語研究 | 36 | 5.5% | 32 | 5.3% |
| | 英語圏文化・文学 | 44 | 6.7% | 45 | 7.4% |
| | 法経商 | 51 | 7.8% | 32 | 5.3% |
| 無回答・無効 | | 5 | 0.8% | 4 | 0.7% |
| 合計 | | 653 | 100.0% | 609 | 100.0% |

図1-2：年齢構成



年齢については、19歳が23.2%と全体の4分の1弱を占めている（図1-2）。居住形態は、自宅52.3%、自宅外47.1%で、自宅が過半数となり初めて自宅外を上回った（図1-3）。入学時の入試形態は、一般入試（第1志望）で受験が64.0%で最も高く、回を重ねるごとに比率を高めている。

図1-3：居住形態

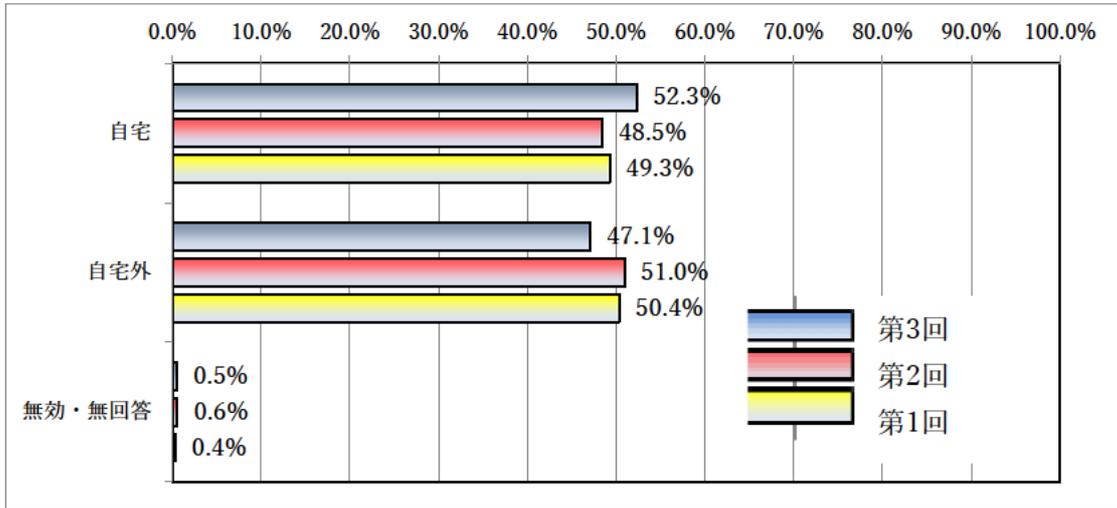
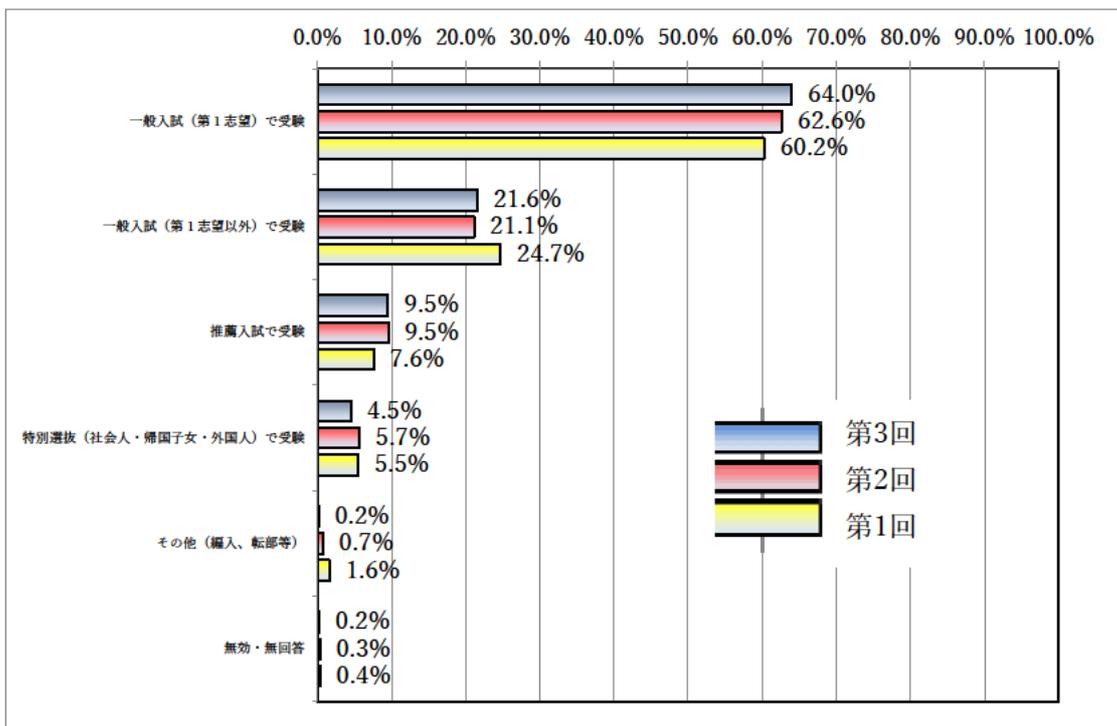


図1-4：入試形態



2 調査結果

2.1 学生生活全体の状況

2.1.1 大学生活の考え方

1) 大学生活の考え方

「自分の将来の方向を見つけること」25.9%、「幅広い知識を身につけること」21.3%、「専門分野について深く学ぶこと」17.4%の割合が高い。上位3項目は第1回、第2回調査と同じである。今回は、第2回と同様に「自分の将来の方向を見つけること」と「幅広い知識を身につけること」が伸びている（図2-1）。

学生生活の総合的評価は、第1回の結果（「満足・やや満足」が53.4% 600人、「不満・やや不満」が13.1% 147人）第2回の結果（「満足・やや満足」が56.6% 699人、「不満・やや不満」が10.5% 129人）と比較して「満足・やや満足」は増加傾向にある（図2-2）。

図2-1：学生生活の目的

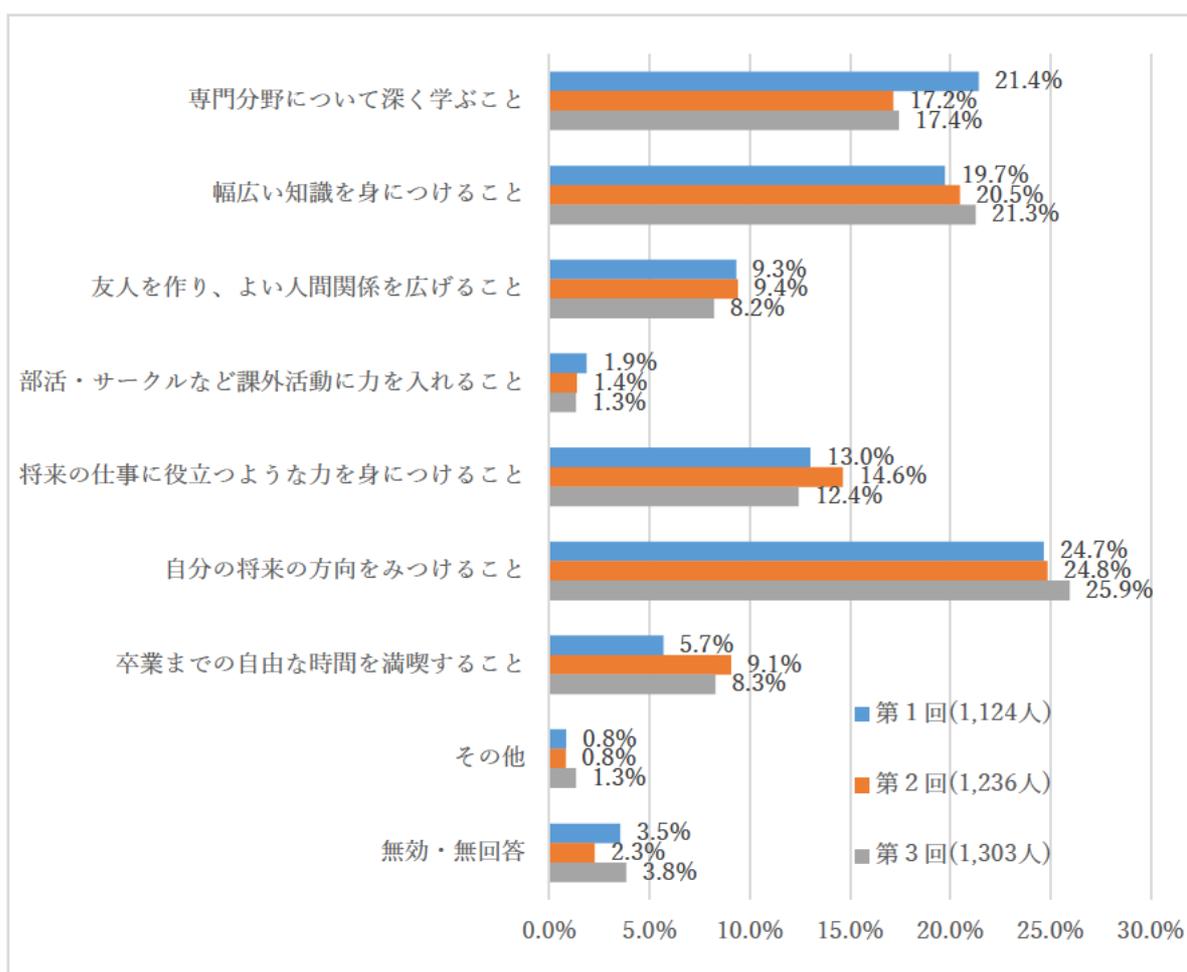
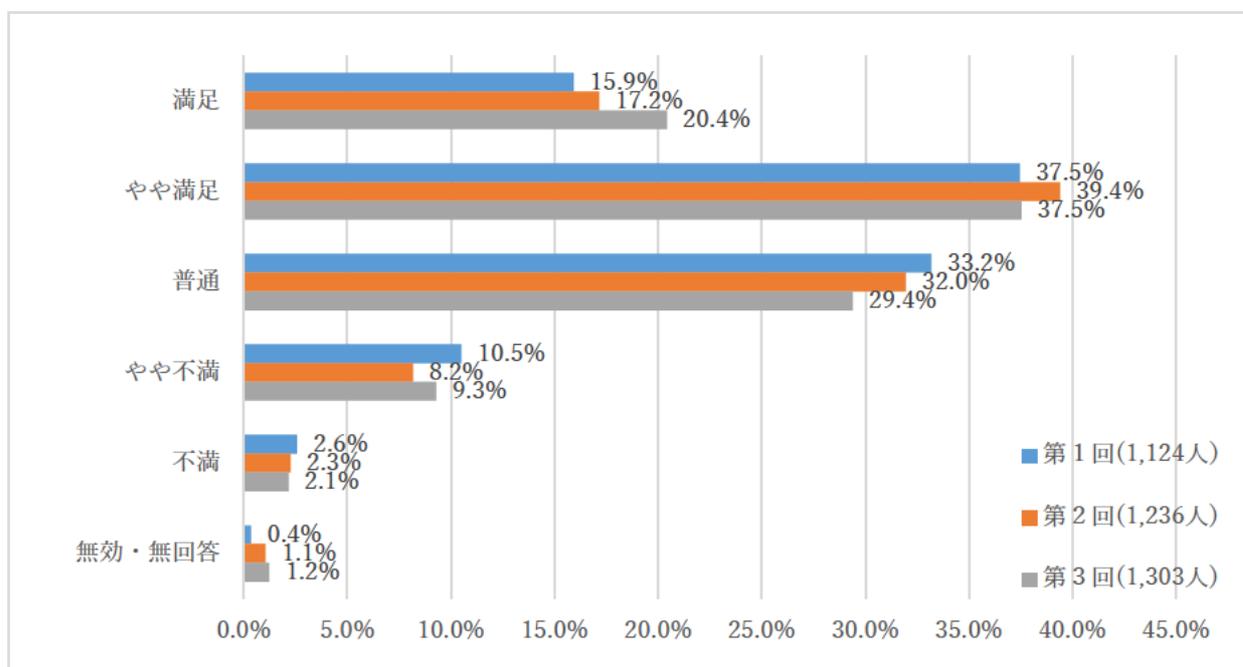


図2-2：学生生活の評価



2) 経済状況

学生本人の月間収入の平均は14万6千円である。これは第2回と比べ6千円の減少であった。そのうち、自宅から通学している学生は12万7千円、自宅外から通学している学生は16万6千円となっている。自学外生は自宅生より3万9千円収入が多い(図2-3)。金額の違いはあれ、自宅外生の方が収入が多いのはこれまでの調査と同様である。また、就労状況において「パート・アルバイト」と「就労はしていない」が大部分を占める点においても、過去の調査と大きな変化は無い(図2-4)。

図2-3：月間収入合計(平均)

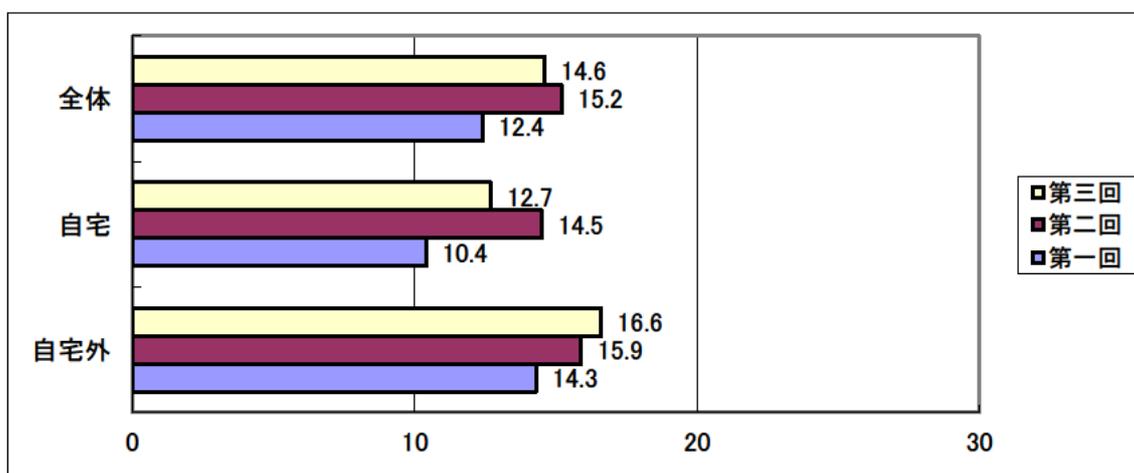
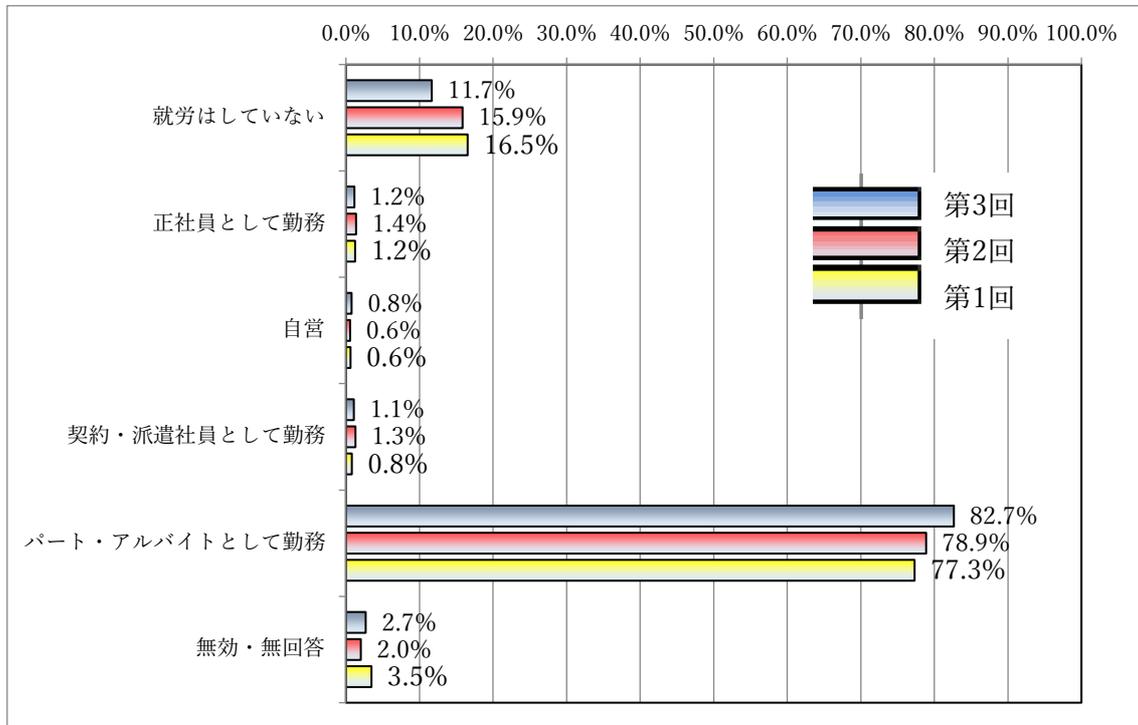


図2-4：学生本人の就労状況



3) 生活時間

平均的な一日像を「平日」と「土日祝日」に分けて調査した。平均時間の結果は以下の通りである（図2-5、図2-6）。平日の「勉強している時間」が土日祝日の倍となっているのは第2回と変わらない。授業の有無が差を生んでいると考えられる。

また、他の問との関連で注目すべき点を挙げると、「アルバイト・定職」の割合が平日・土日祝日ともに第2回と比べ若干増加しているにも関わらず、先の「経済状況」で見た収入は減っていた点であろう。

以上は平均値を比較したものである。分布を比較したものが図2-7から図2-12である。

図 2 - 5 : 1日の生活時間 (平日)

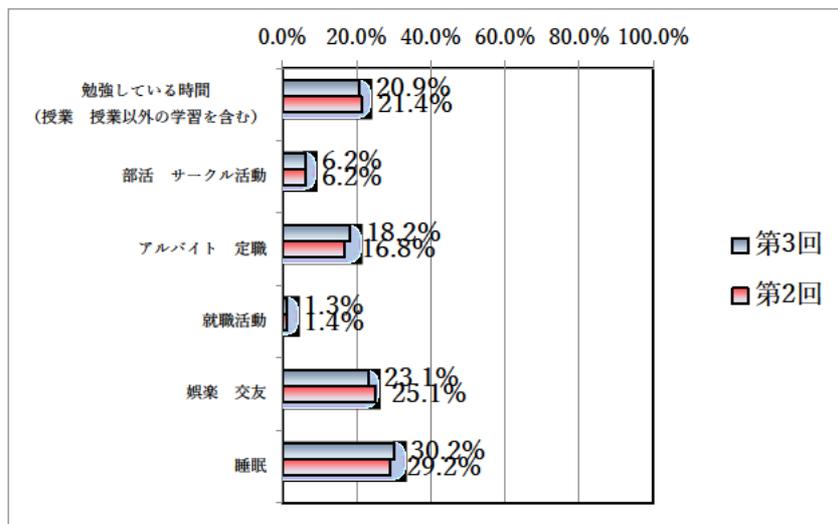


図 2 - 6 : 1日の生活時間 (土日祝日)

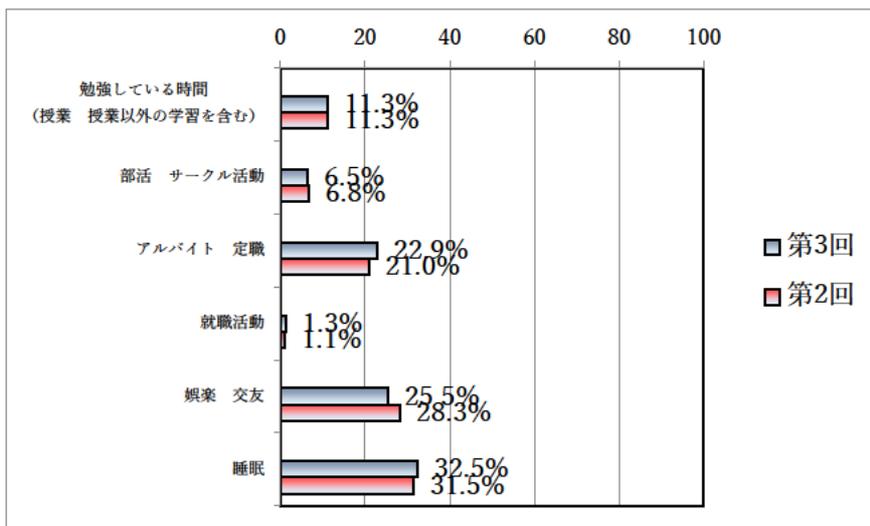


図 2 - 7 : 勉強している時間

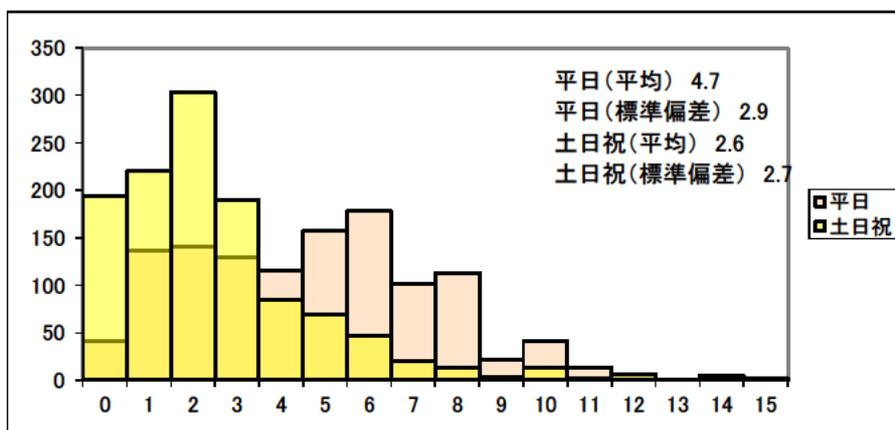


図 2 - 8 : 部活・サークル活動

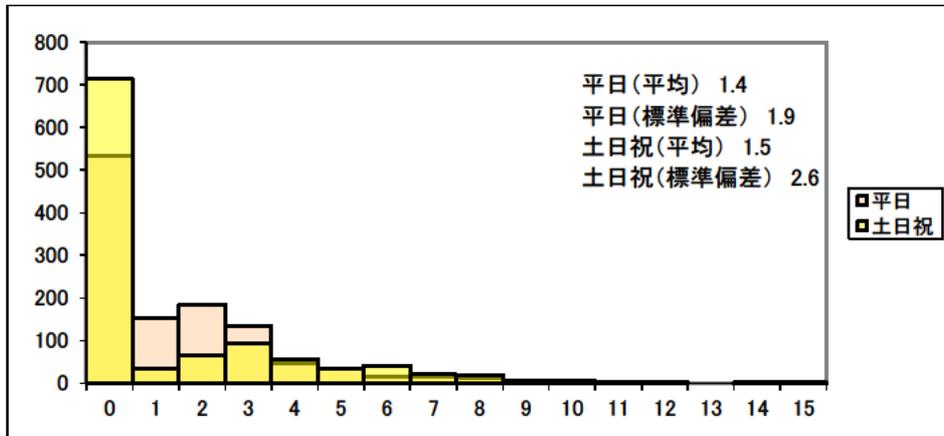


図 2 - 9 : アルバイト・定職

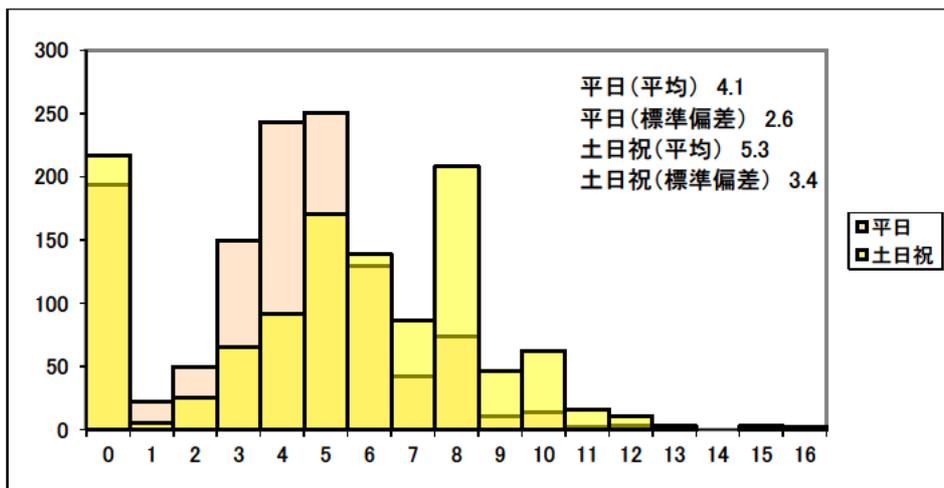


図 2 - 10 : 就職活動

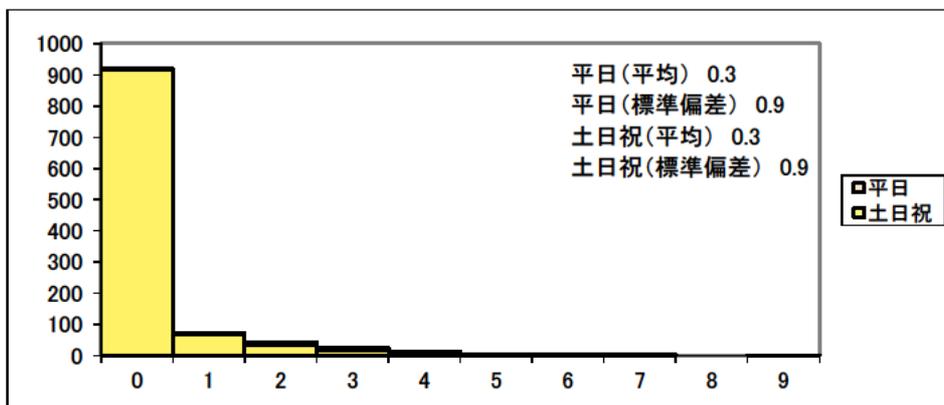


図 2 -11 : 娯楽・交友

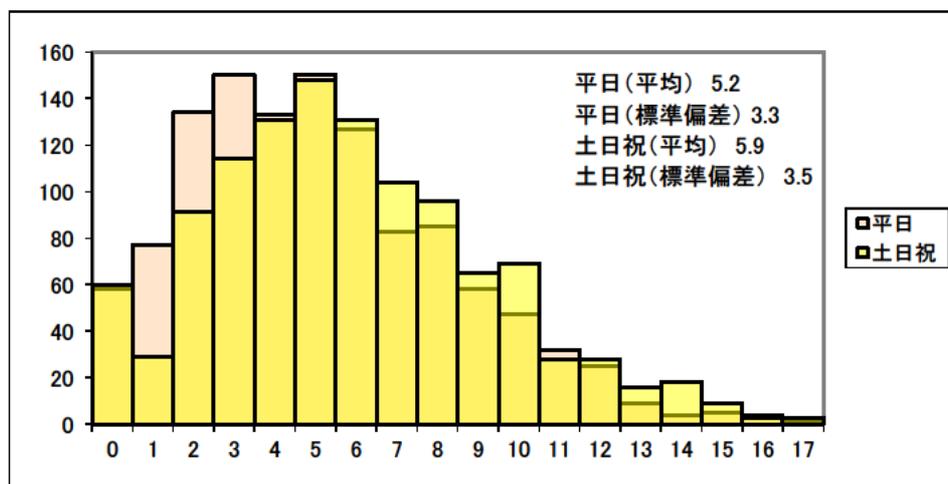
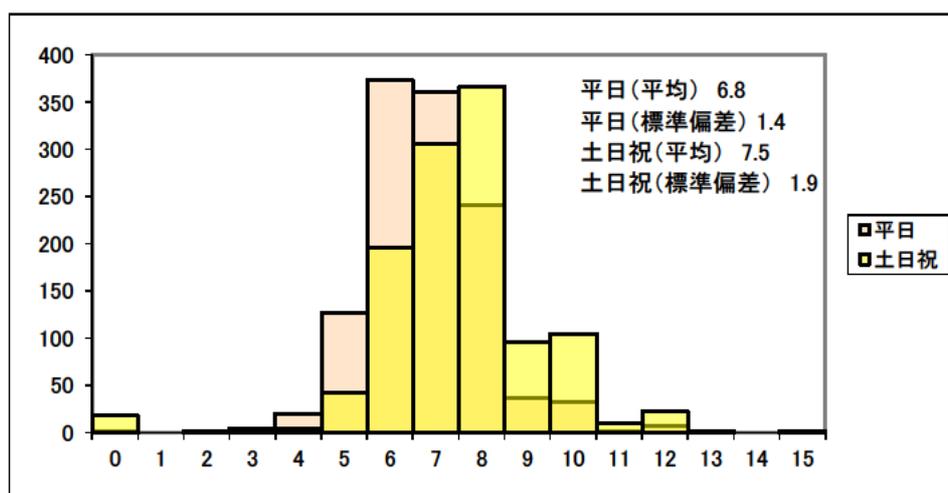


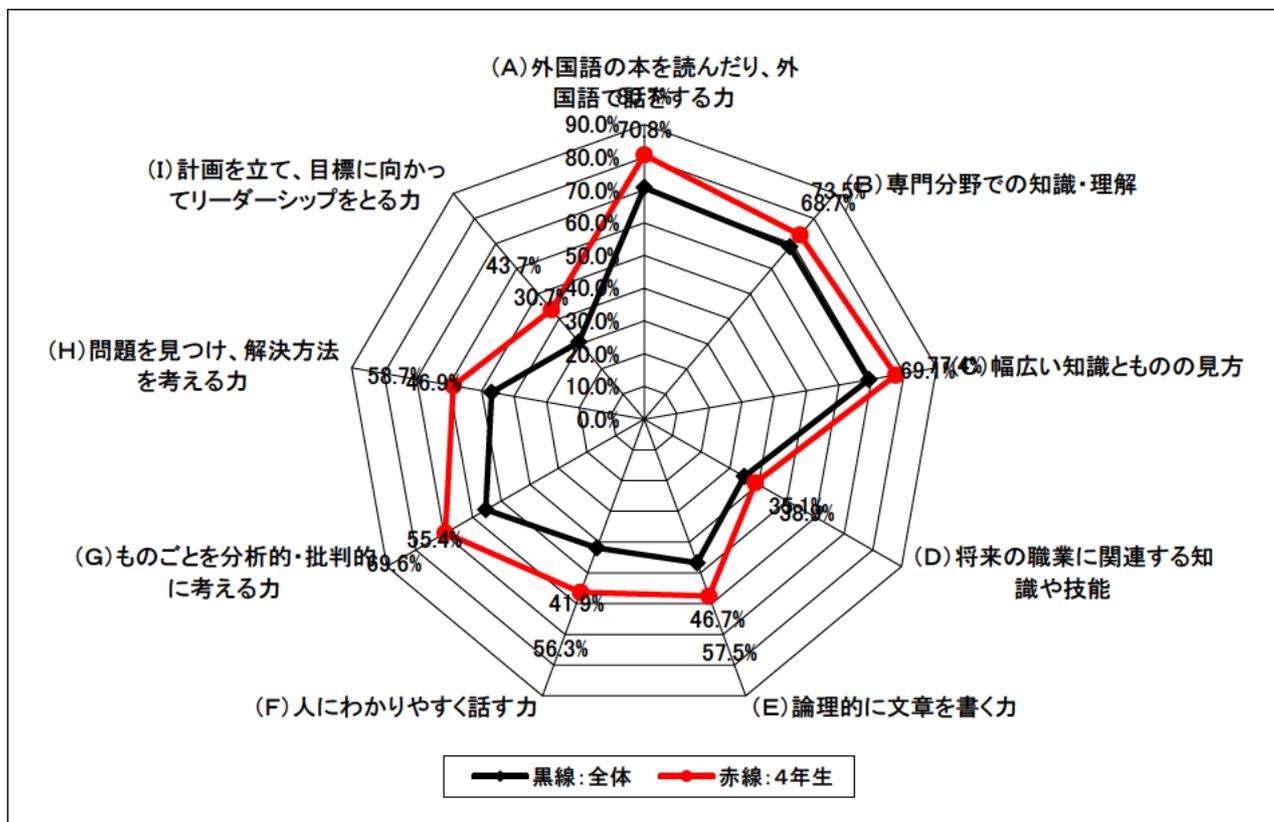
図 2 -12 : 睡眠



2.1.2 学生生活の（主観的）成果

大学生活でこれまで身に付いたと実感できることについて、項目ごとにどの程度当てはまっているかを質問した。図 2 -13 の数字は「そう思う」と「ややそう思う」の合計である。

図2-13：学生生活の（主観的）成果



全学年で見た場合、回答者の過半数以上が「身に付いた」と答えた項目は、

- 「(A) 外国語の本を読んだり、外国語で話をする力」 (70.8%)
- 「(B) 専門分野での知識・理解」 (68.7%)
- 「(C) 幅広い知識とものの見方」 (69.1%)
- 「(G) ものごとを分析的・批判的に考える力」 (55.4%)

である。反対に、「身に付いた」と答えた人が過半数を下回った項目は、

- 「(D) 将来の職業に関連する知識や技能」 (35.1%)
- 「(E) 論理的に文章を書く力」 (46.7%)
- 「(F) 人にわかりやすく話す力」 (41.9%)
- 「(H) 問題を見つけ、解決方法を考える力」 (46.9%)
- 「(I) 計画を立て、目標に向かってリーダーシップをとる力」 (30.7%)

である。これらの項目は第2回とまったく同じであった。

また、4年生に限定して見た場合、全ての項目において全学年の数値を上回っていた。その中でも10%以上値が大きくなっている数値は下記の通りである。

- 「(E) 論理的に文章を書く力」 (57.5%)
- 「(F) 人にわかりやすく話す力」 (56.3%)

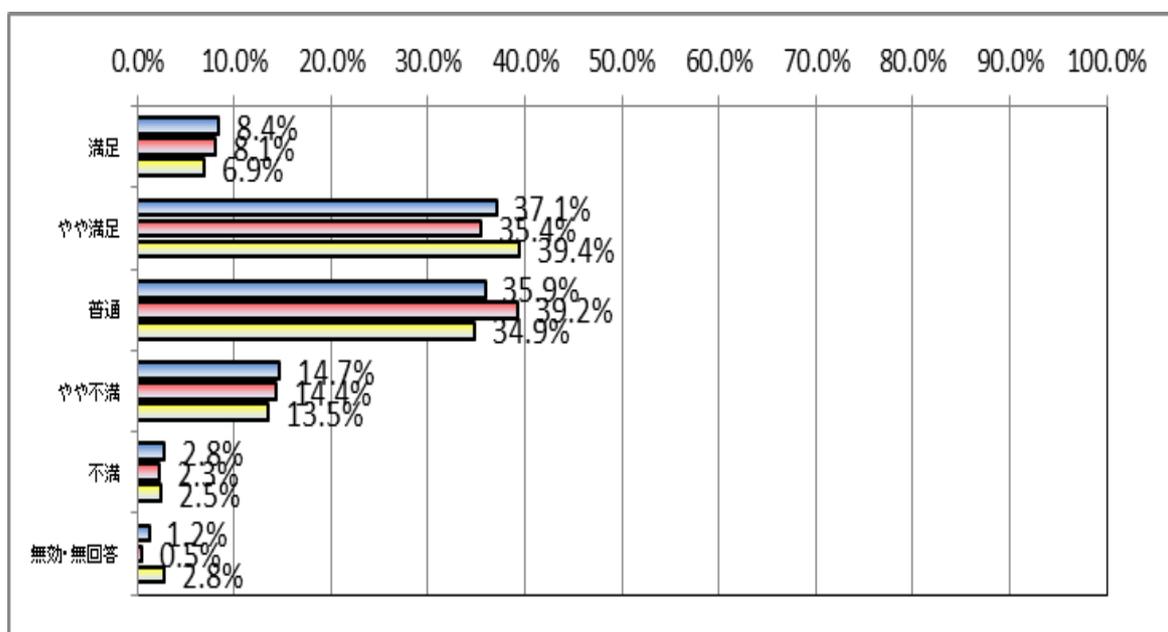
- 「(G) ものごとを分析的・批判的に考える力」 (69.6%)
- 「(H) 問題を見つけ、解決方法を考える力」 (58.7%)
- 「(I) 計画を立て、目標に向かってリーダーシップをとる力」 (43.7%)

2.2 個別活動（成果教育と学習環境）

2.2.1 正課教育

授業を全般的に評価すると、肯定的評価（「満足」と「やや満足」の合計）は45.5%、否定的評価（「不満」と「やや不満」の合計）は17.5%である。第1回と第2回の調査ではそれぞれ肯定的評価は43.5%、46.3%、否定的評価は16.7%、16.0%であり、一貫した傾向はみられない（図2-14）。

図2-14 : 全科目の総合評価



注：上から順に、第3回、第2回、第1回の調査結果。

2.2.2 図書館

図書館に対する評価では、肯定的評価が72.2%、否定的評価が8.5%である。第2回では肯定的評価70.4%、否定的評価9.9%、第1回では肯定的評価63.1%、否定的評価16.3%であるので、図書館に対する評価は一貫して改善している（図2-15）。利用頻度は、回答が多い順に、「週に1~2回」(48.7%)、「月に1~2回」(23.2%)、「ほとんど毎日」(12.9%)である。第1、2回の結果と分布は変わらないが、「週に1~2回」以上利用している比率は、調査の回を重ねるごとに減少している（図2-16）。利用しない理由を訊いた設問では、「利用する時間がない」(31.0%)、「インターネットで情報を入手している」(27.2%)、

「必要な資料がない」(15.2%)の順になっている(図2-17)。

満足度は上がっているものの、利用状況は下がっている。また、利用しない理由として「入りにくい雰囲気」の割合は減少している一方、「必要な資料がない」の割合が上昇している。

図2-15 : 図書館に対する評価

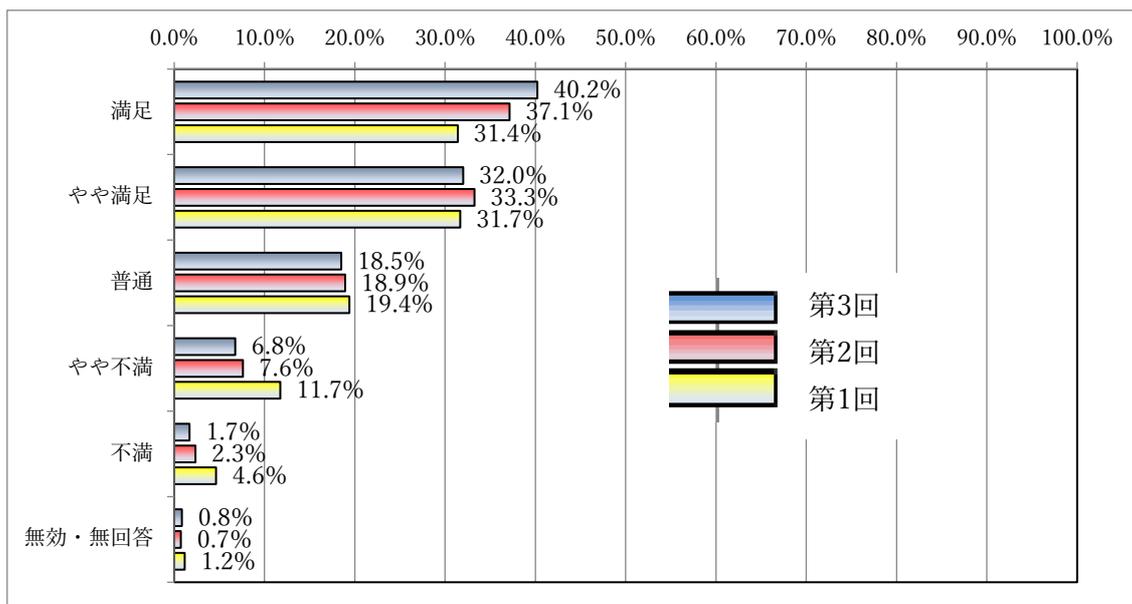


図2-16 : 図書館の利用状況

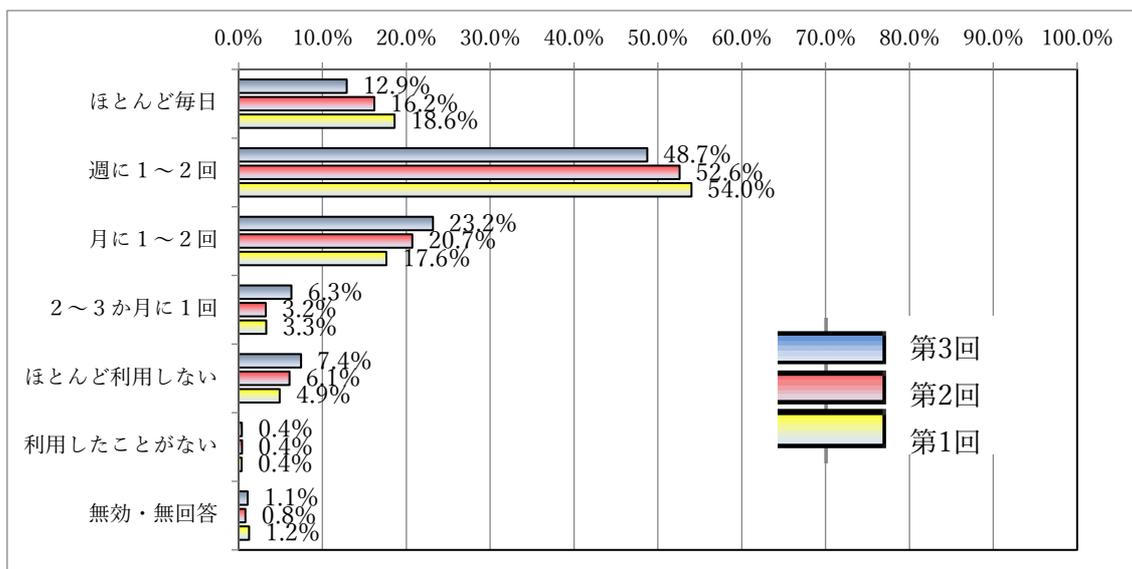
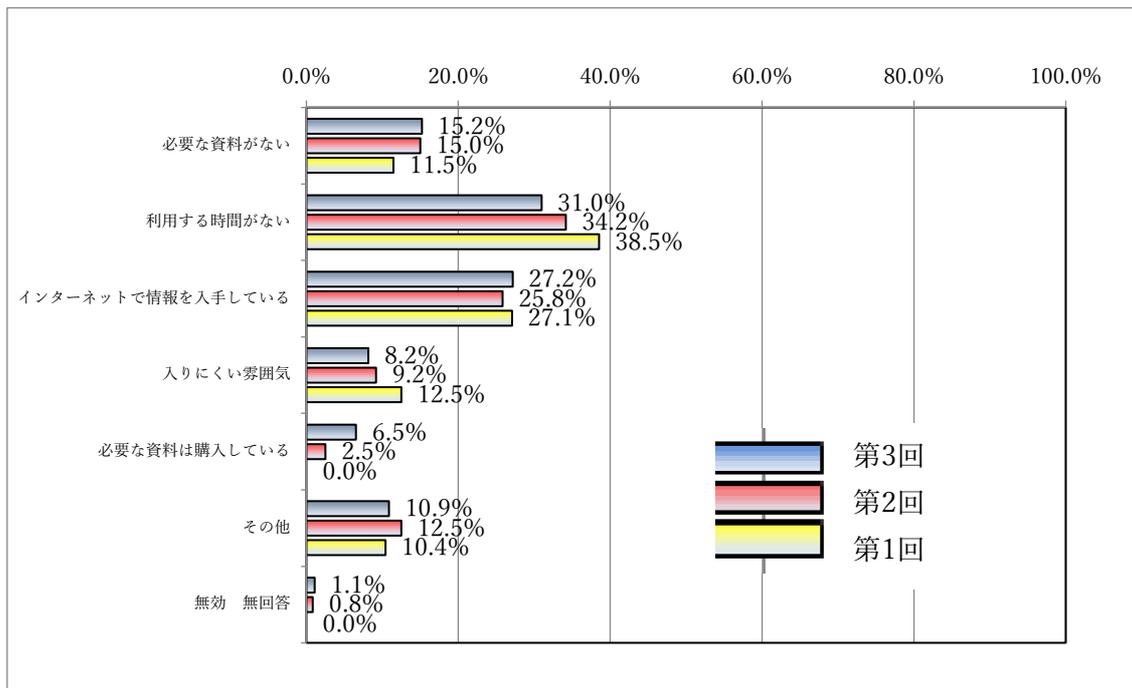


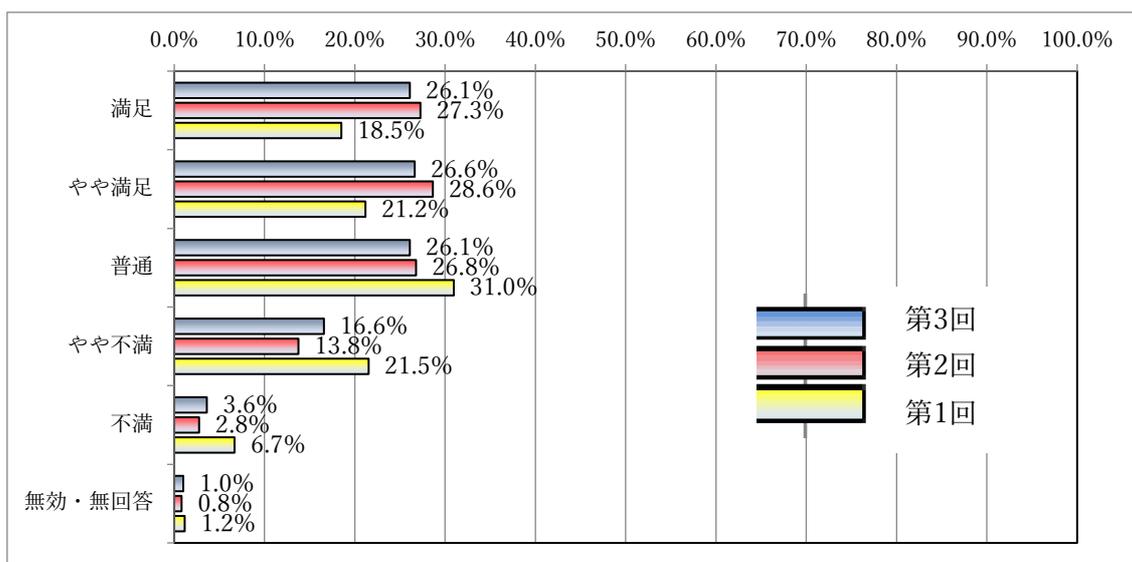
図 2-17 : 図書館を利用しない理由



2.2.3 学習のための施設（教室、自習スペース等）の満足度

学習のための施設に対する評価では、肯定的評価が 52.7%、否定的評価が 20.2%である(図 2-18)。第 2 回調査時よりも肯定的評価は減少し、否定的評価が増加しているが、第 1 回調査と比較すると大きく改善している。

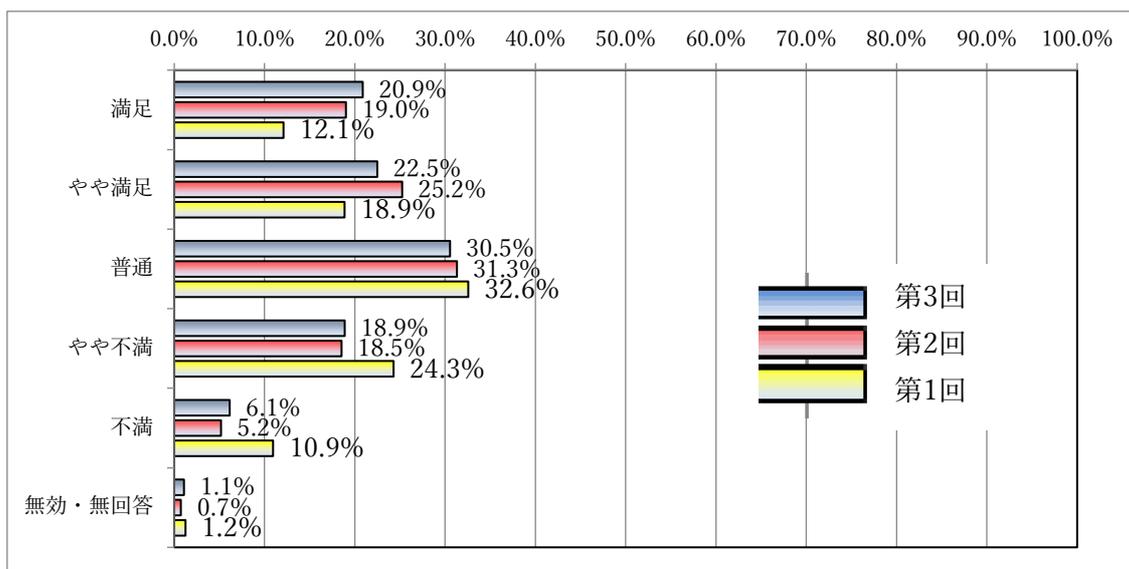
図 2-18 : 学習のための施設(教室、自習スペース等)の満足度



2.2.4 情報機器

情報機器の設備に対する評価では、肯定的評価が43.4%、否定的評価が25.0%である（図2-19）。第2回調査よりも満足度が幾分低下しているが、第1回調査と比較して大きく改善している状況は維持している。

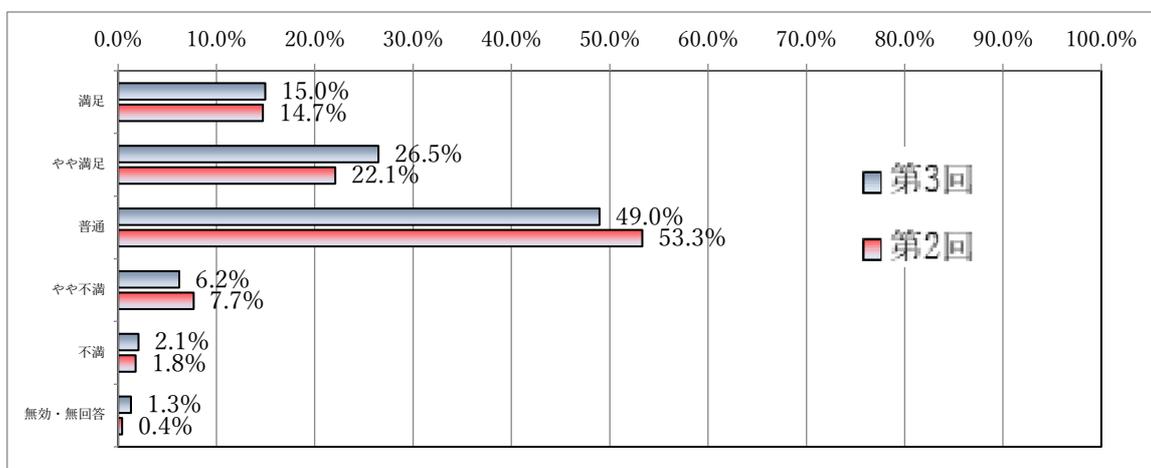
図2-19：情報機器等の設備の満足度



2.2.5 教員との交流

学習にかかわっている教員との交流の満足度を訊いた設問では、肯定的評価が41.5%、否定的評価が8.3%である。第2回調査時の肯定的評価が36.8%、否定的評価が9.5%と比較すると、両評価ともに大きく改善しており、第1回調査結果（肯定的評価が39.5%、否定的評価が11.5%）を上回っている。

図2-20：教員との交流の満足度



2.3 個別活動（課外活動）

2.3.1 部活・サークル活動・ボランティア活動・語劇の状況

課外活動のうち、部活・サークル活動、ボランティア活動、語劇の参加状況を質問した結果は以下の通りである。図2-21のとおり、現在、何らかの課外活動に参加している学生の割合は59.8%である。過去の調査では、60.8%（第1回）、62.3%（第2回）となっており、最も低い水準となっている。特に、積極的に参加している比率は減少傾向にある。

参加している分野は、図2-22の通りである。「体育会活動」の割合が最も高く(20.7%)、課外活動の参加目的としては図2-23に示されている通り、「学生生活を楽しむ」(42.3%)、「友人を得る」(31.8%)の割合が高くなっている。

図2-21：課外活動の頻度

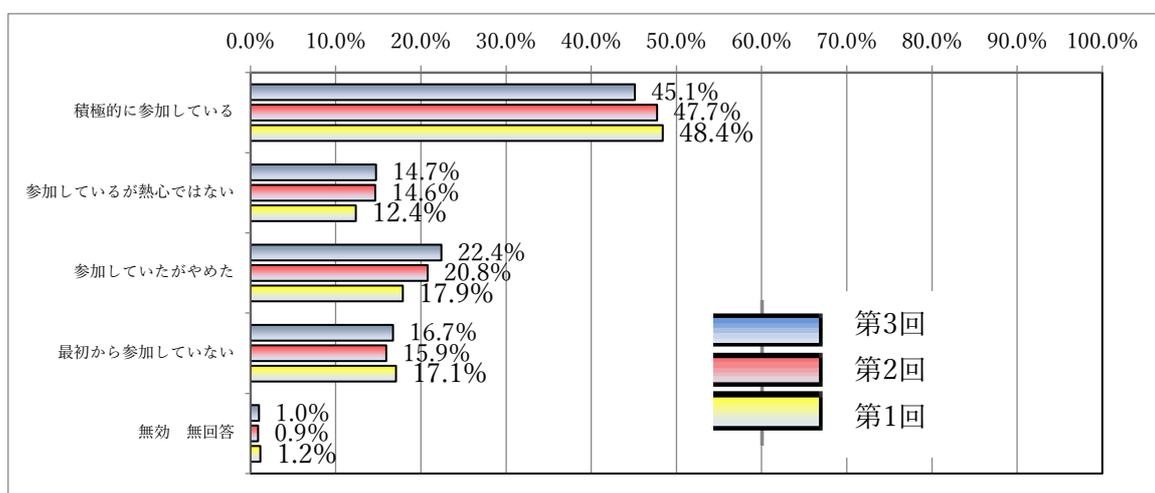
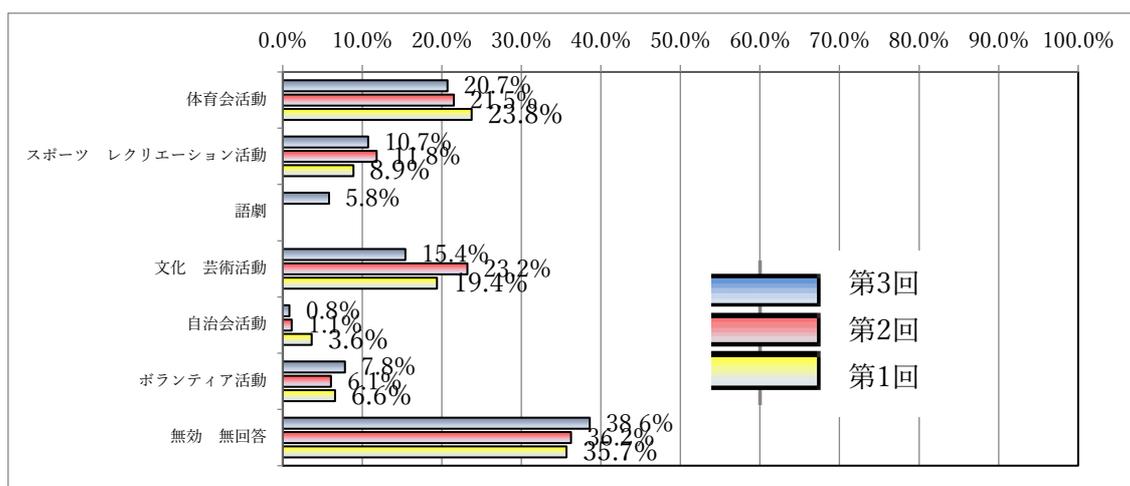
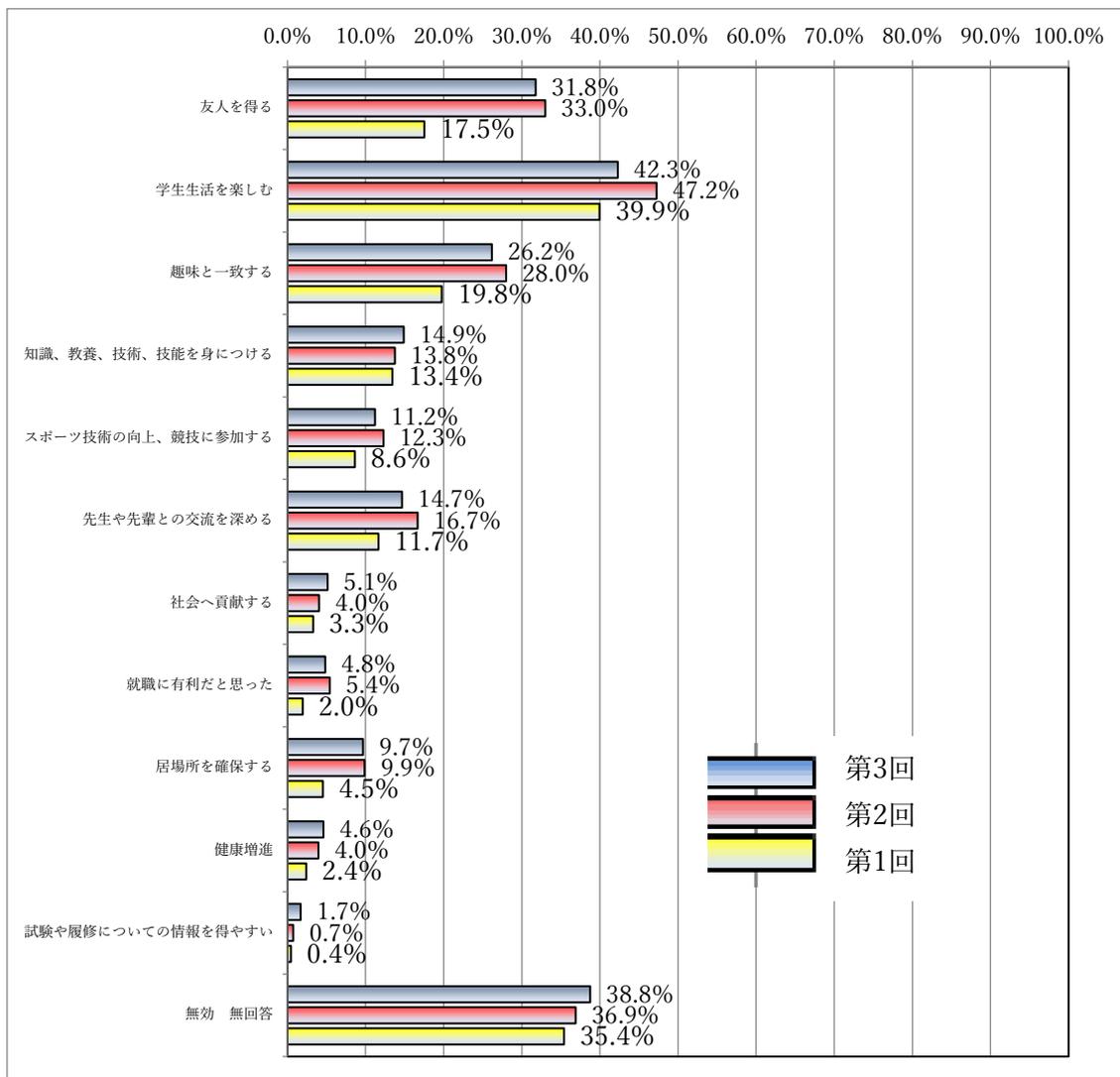


図2-22：課外活動の分野



注 第1回と第2回の調査では、「語劇」が「文化・芸術活動」に含まれる。

図 2-23：課外活動の参加目的



2.3.2 ボランティア活動の状況

ボランティア活動に限った状況を見てみると、ボランティア活動の経験がある学生¹は35.9%であり、第2回調査時の39.0%より減少しているが、第1回調査時の34.2%よりも割合が高くなっている(図2-24)。

ボランティア活動に関心のある学生²に対して、関心のある分野を質問した結果が図2-25である。割合の高い3項目は「外国人対象の国際支援」(64.9%)、「子どもの教育支援」(39.4%)、「災害支援・復興支援」(23.4%)となっている。

¹ 「この1年間にしたことがある(または現在している)」と「過去にしたことがある」の合計。

² 質問(22)において「この1年間にしたことがある(または現在している)」、「過去にしたことがある」、「関心はあるがしたことがない」のいずれかに回答した学生を指す。

図 2-24 : 入学後のボランティア活動の参加状況

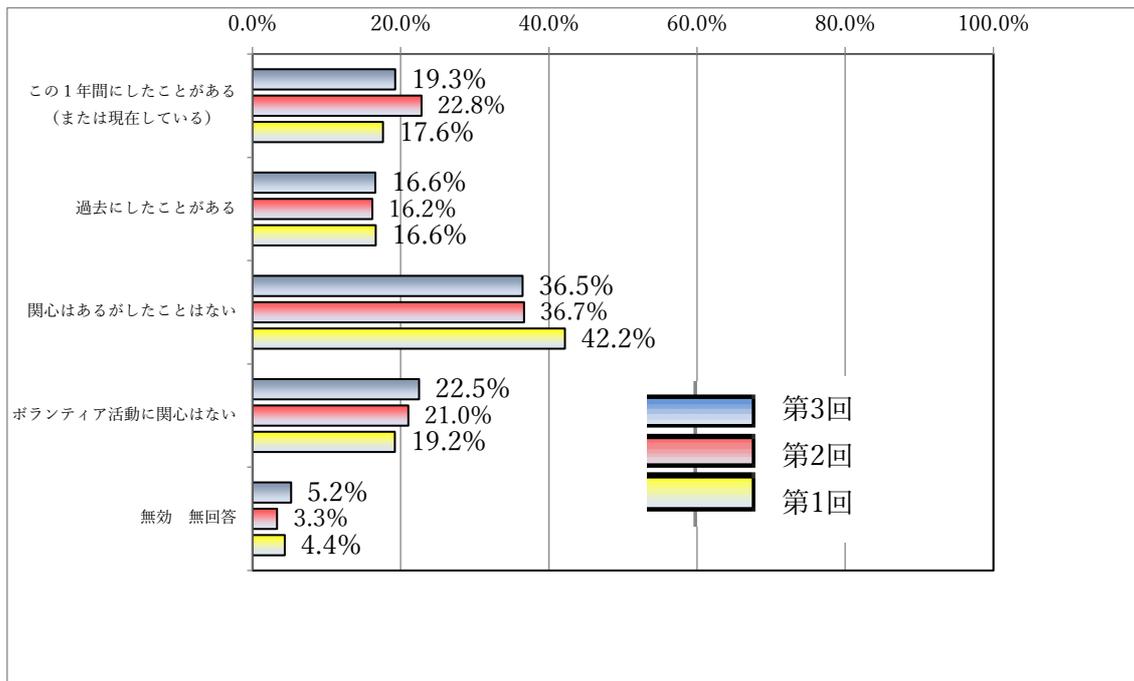
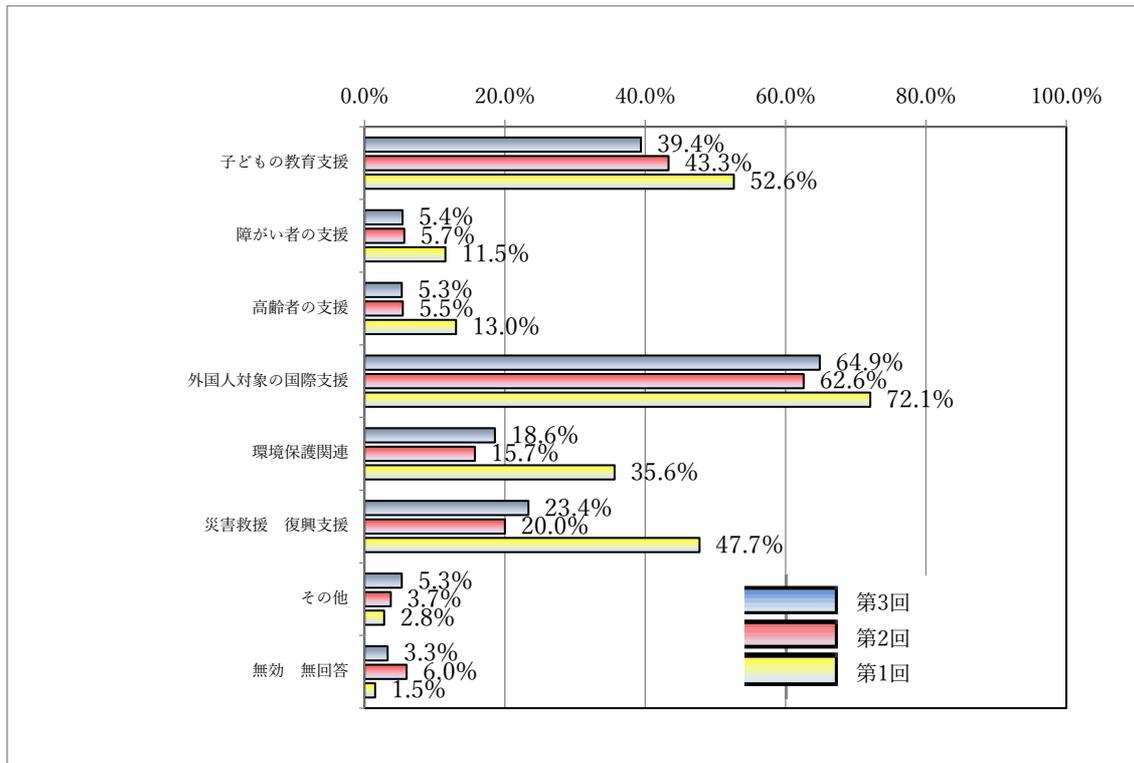


図 2-25 : ボランティア活動で関心のある分野



2.4 個別活動 (留学)

2.4.1 留学の状況

留学の状況は、図2-26、図2-27の通りである。「留学をしたことがある」が29.6%、「在学中に留学を検討している」が41.2%、「特に留学する予定がない」が27.4%である。第2回調査時と比較すると「留学をしたことがある」の割合が1.6%減少し、「在学中に留学を検討している」の割合には大きな変化は見られない。学年別推移では、1年生の75.9%が留学を検討している一方、4年生での留学経験者は67.8%である。この4年生での留学経験者比率は第2回調査時の結果(67.2%)と比較して大きな変化は見られない。

「留学する予定がない」学生にその理由を訊いた結果が図2-28である。割合の高い順に「留学費用が高い」(30.3%)、「関心がない」(13.7%)、「4年で卒業したかった」(12.0%)であった。第2回調査時と比較すると「関心がない」と「4年で卒業したかった」の順位が入れ替わるものの、前回から引き続きこの三つが主要な理由である。「留学費用が高い」(第2回調査時26.9%→今回30.3%)、「関心がない」(第2回調査時10.8%→今回13.7%)が第2回調査時よりも割合を上げている。これに対し、「4年で卒業したかった」(第2回調査時14.9%→今回12.0%)の割合は下がっている。

図2-26：留学状況

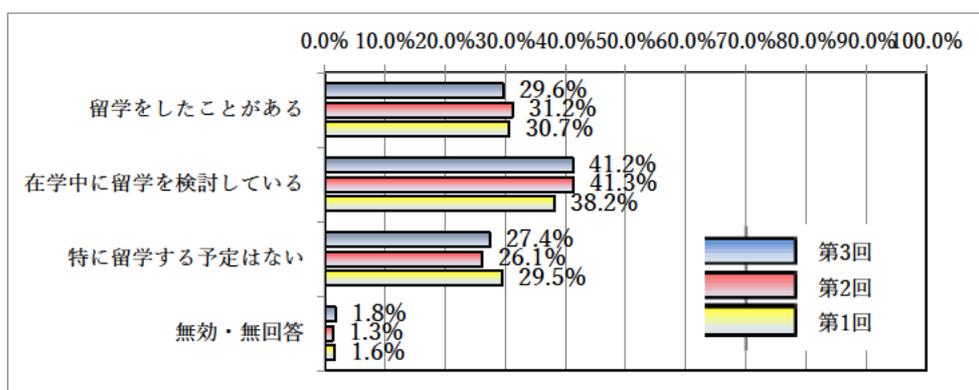


図2-27：学年別留学状況

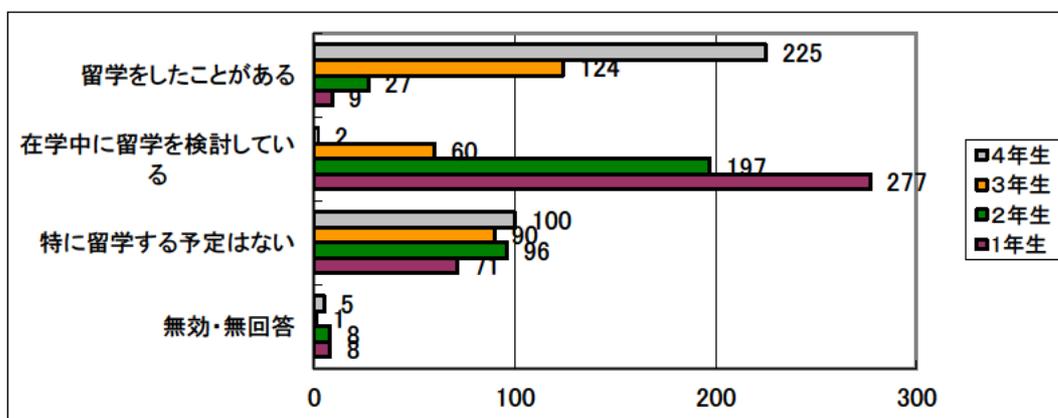
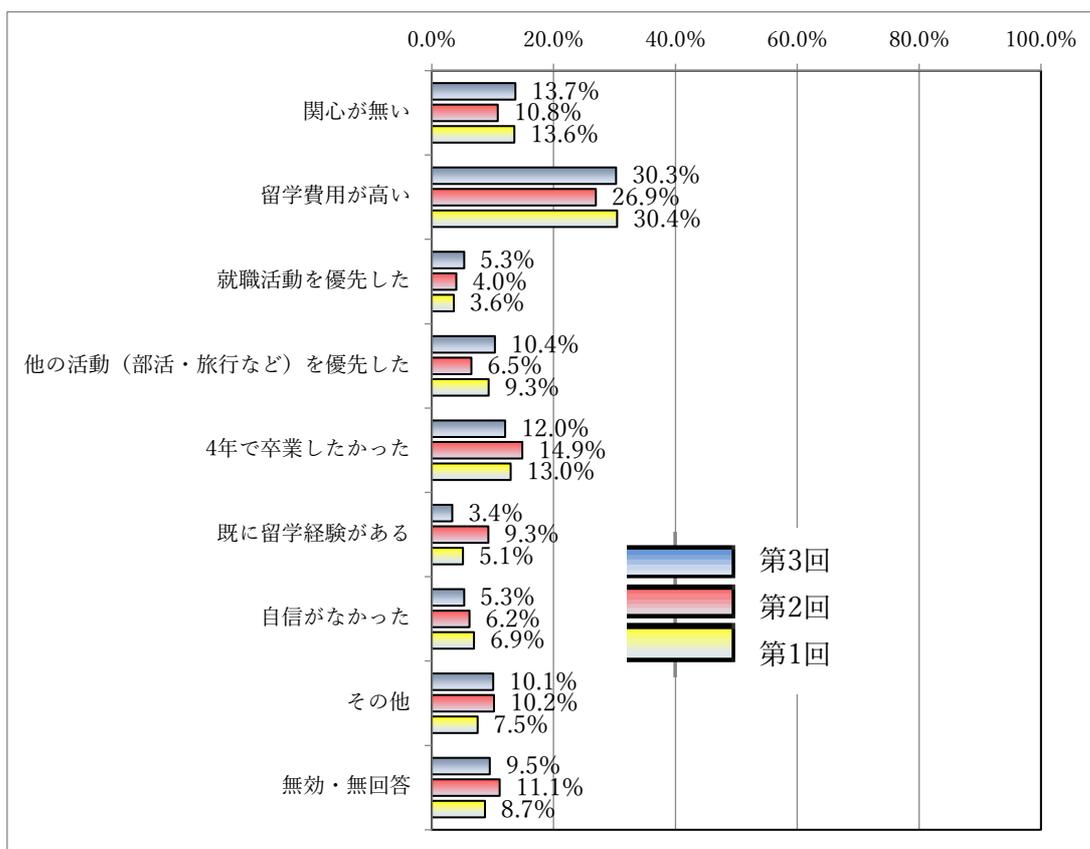


図 2-28：留学を予定していない理由



2.4.2 留学の形態

「留学をしたことがある」、「留学を検討している」と回答した学生を対象に、留学の形態について質問した。結果は図 2-29 から図 2-33 の通りである。

まず、留学の期間（図 2-29、図 2-30）について、「留学をしたことがある」、「留学を検討している」のいずれの回答についても 6 ヶ月～12 ヶ月未満の割合が最も高くなっている。

次に留学の種類についての結果は図 2-31 の通りである。「本学派遣留学制度(交換留学、長期派遣留学、スペイン派遣留学、短期派遣留学)」の割合が 29.7%、「休学して留学(語学学校)」が 29.6%とほぼ横並びで最も高い。「本学派遣留学制度(交換留学、長期派遣留学、スペイン派遣留学、短期派遣留学)」は第 2 回調査と同様に高い割合となっているが、「休学して留学(語学学校)」(第 2 回調査時 22.0%→今回 29.6%) が第 2 回調査時よりも 7.6%もの上昇となっている。「休学して留学(4 年生・2 年生大学等の正規学部授業・語学コース)」は前回の 22.7%から今回の 19.4%とやや減少している。

留学先については図 2-32 の通り、英語圏が 6 割を超えており、留学内容を決めるにあたっての重要な要素としては、図 2-33 の通り、「留学費用」と「就職活動との関係」の割合が第 1 回調査時より緩やかに上昇傾向にある。

図2-29：留学の期間（「留学をしたことがある」の回答者）

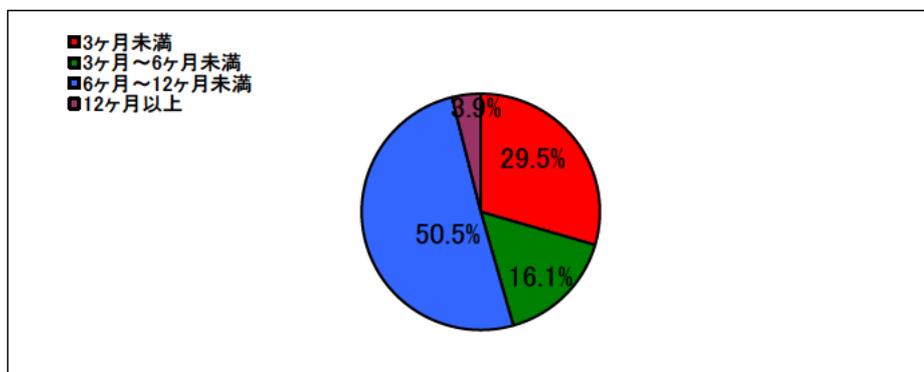


図2-30：留学の期間（「在学中に留学を検討している」の回答者）

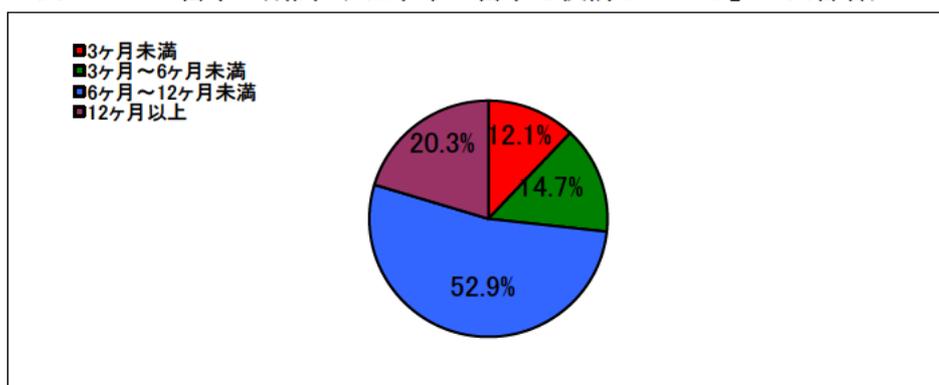


図2-31：留学の種類

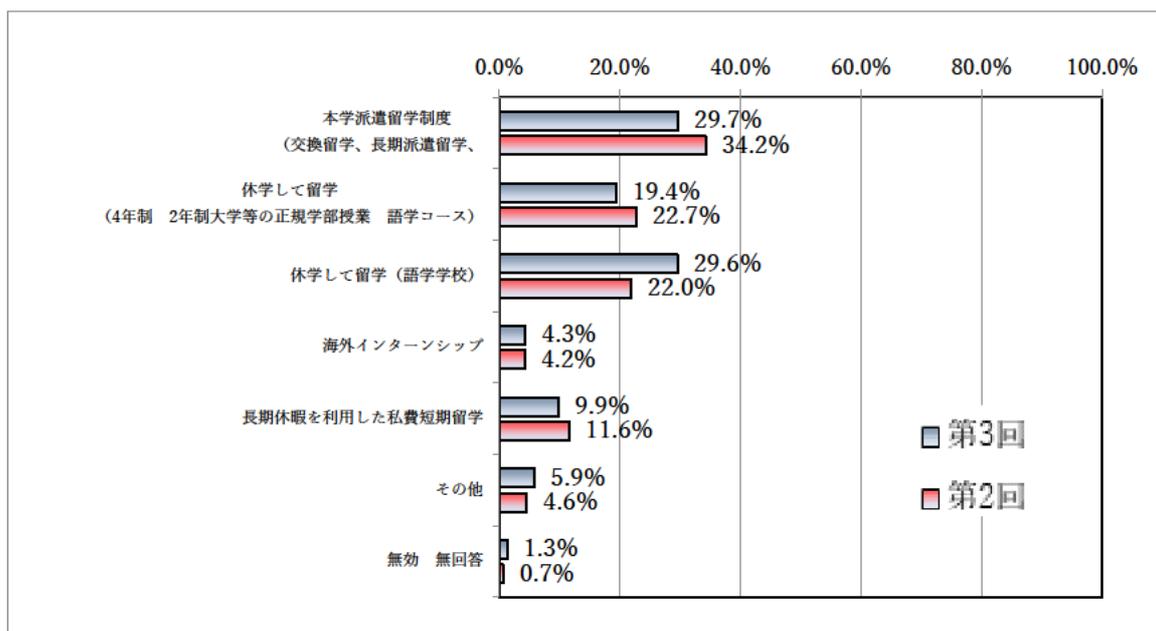


図2-32：「留学をしたことがある」と回答した人の留学先

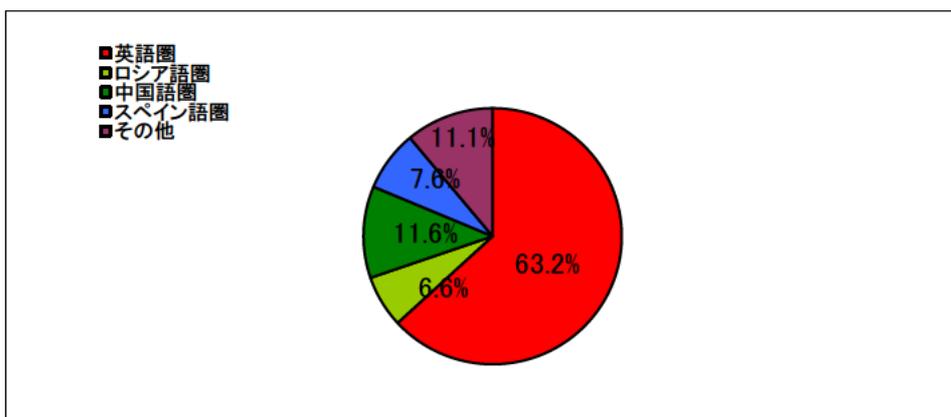
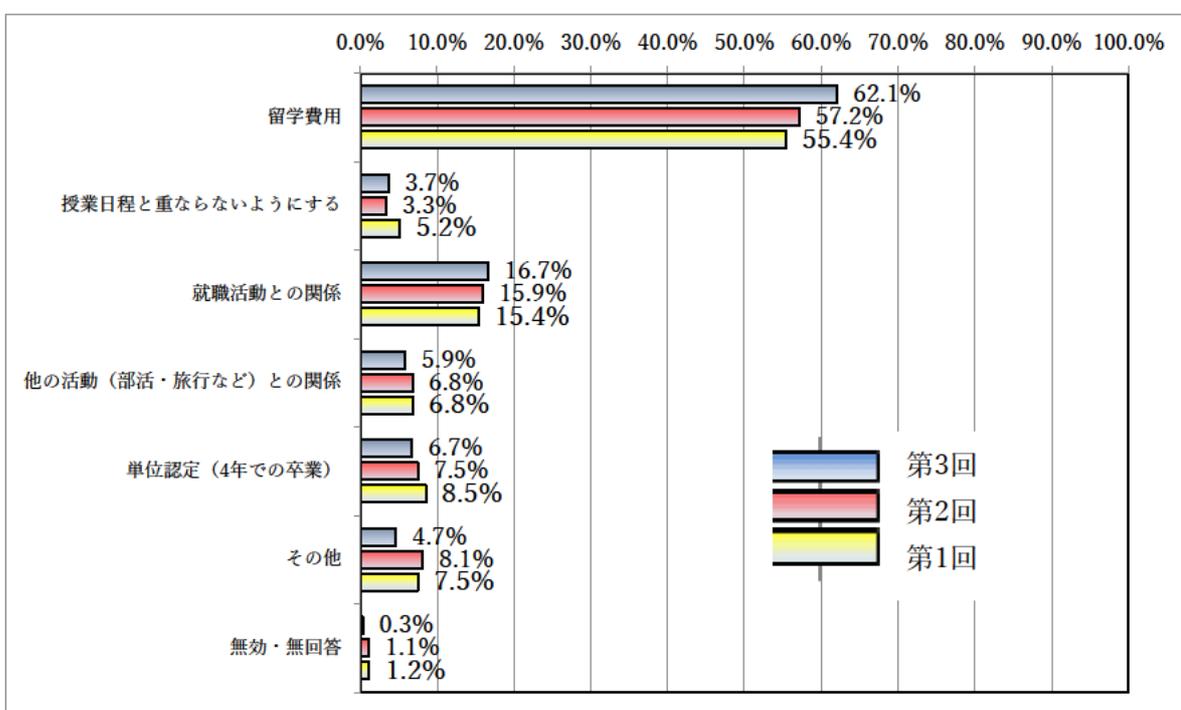


図2-33：留学内容を決めるにあたって最も重要な要素（全体）



2.5 個別活動（TOEIC、就職活動について）

2.5.1 TOEIC

TOEICの受験状況とその得点を質問した。第1回、第2回と比較した場合、受験者割合は若干低下している(図2-34)。「受けたことがある」と回答した人の比率は、1年生(42.5%)、2年生(55.8%)、3年生(72.4%)、4年生(87.7%)と増加している(図2-35)。第2回調査時と比較すると、2年生の受験者率が低くなっている。それ以外の学年の受験者率はさほど変化はみられない。

得点についての結果は、図2-36の通りである。学生全体の平均得点は第2回調査時と比べてほぼ同じ水準である(第1回 746.2点、第2回 756.8点、第3回 758.7点)。学年が上がるにつれて平均点が順調に上昇していることがみてとれる。

図2-34：TOEIC受験状況

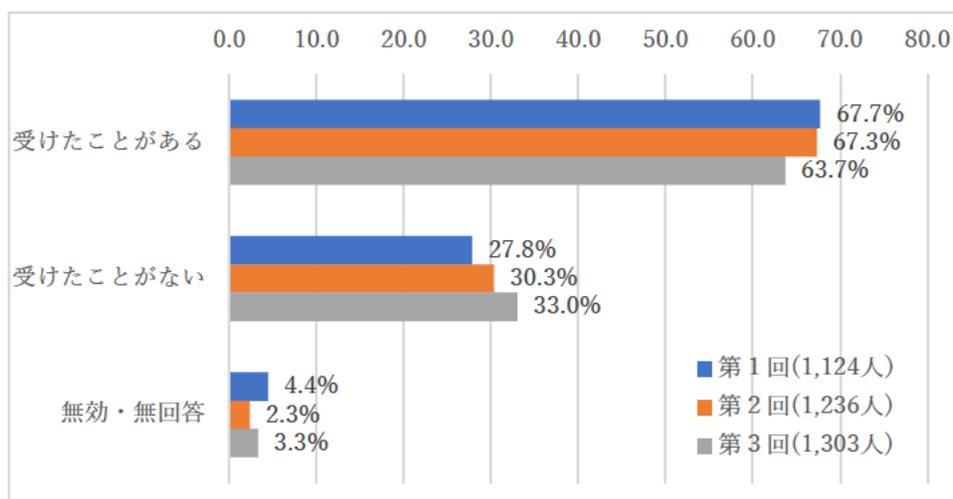


図2-35：TOEIC受験状況（学年別）

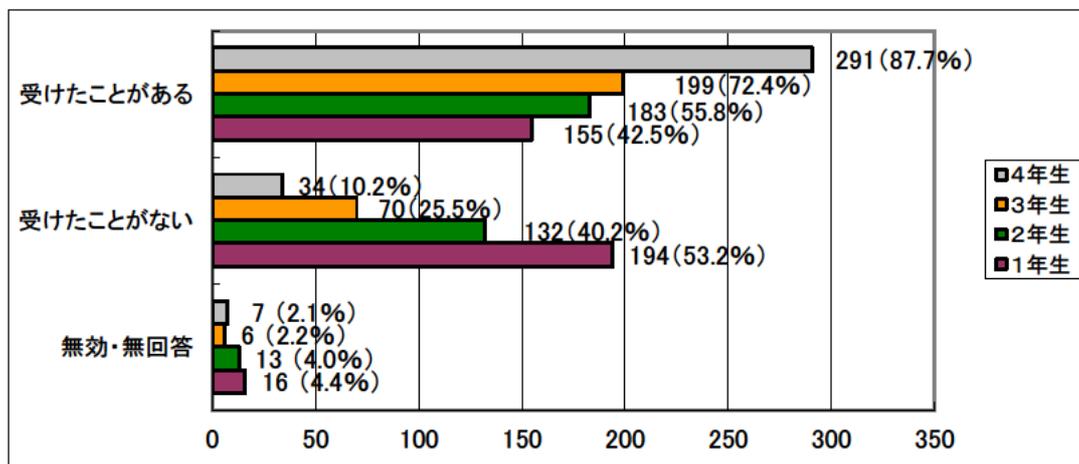
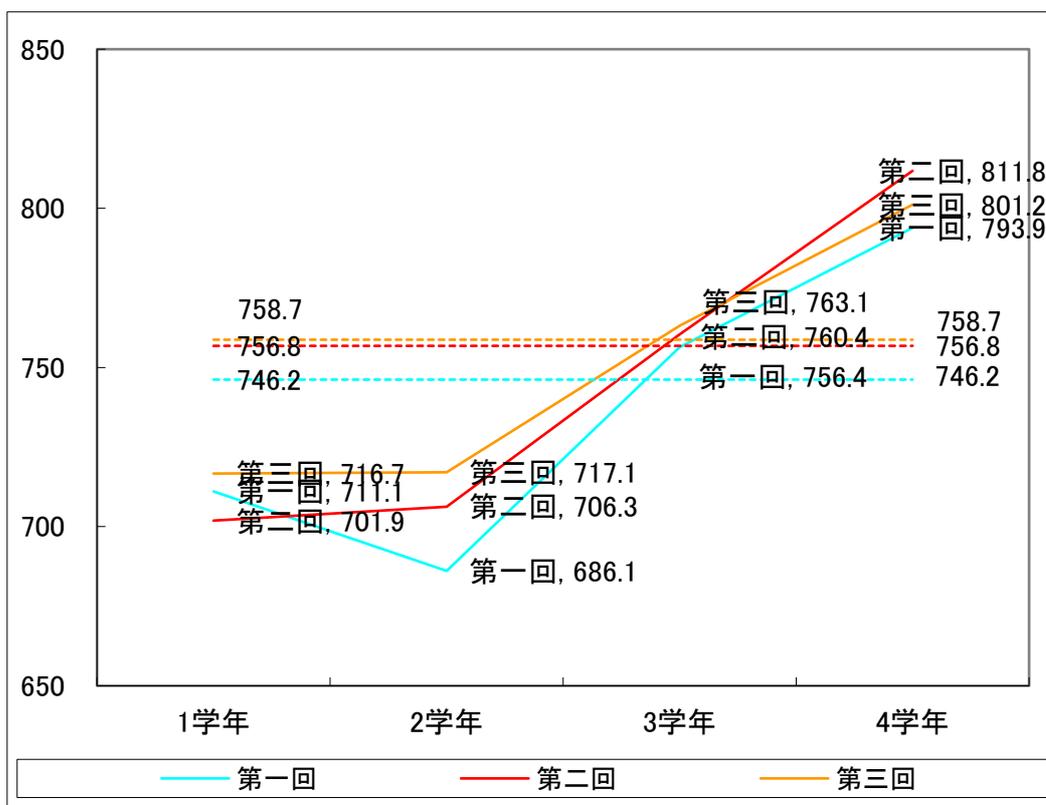


図2-36： TOEIC 平均得点（学年別）



2.5.2 1、2、3年生の卒業後に希望する進路

1、2、3年生に卒業後に希望する進路を訊いたところ、「就職」³が最も多く70.6%、「決まっていない」が20.1%、「海外へ留学」が2.8%と続いている(図2-37)。就職(民間)、就職(その他)を回答した学生に対し、希望する業種を訊いた結果が図2-38、図2-39である。希望就職先は「旅行・教育・サービス」が34.3%と最も高く、次いで「メーカー」が28.7%となっている。

学年別推移でみると、「旅行・教育・サービス」が2年生から3年生で急激に減少しているのに対し、「メーカー」は急激に増加している。3年次で「旅行・教育・サービス」が減少し、「メーカー」が増加する傾向は、第2回調査時にもみられる。

³ 就職(民間)、就職(教員)、就職(公務員)、就職(その他)の合計。

図 2 - 37 : 希望進路先

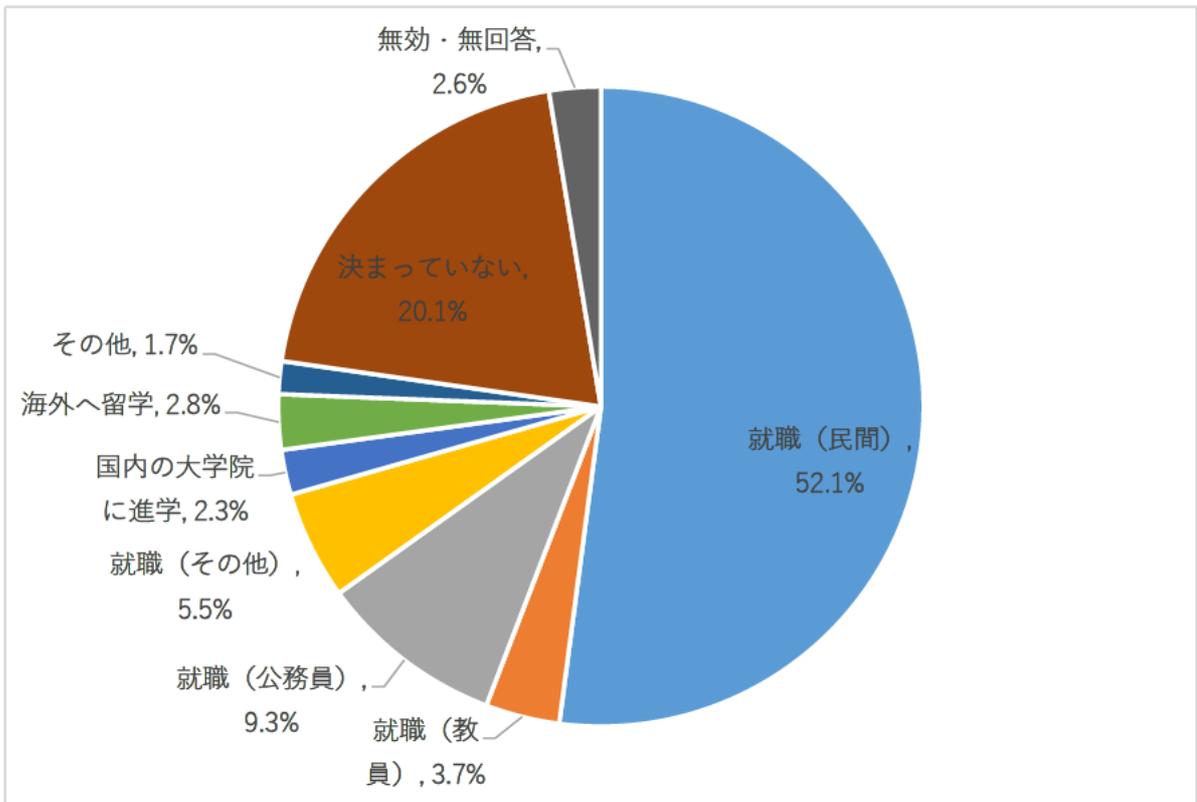


図 2 - 38 : 民間希望就職先（1、2、3年）

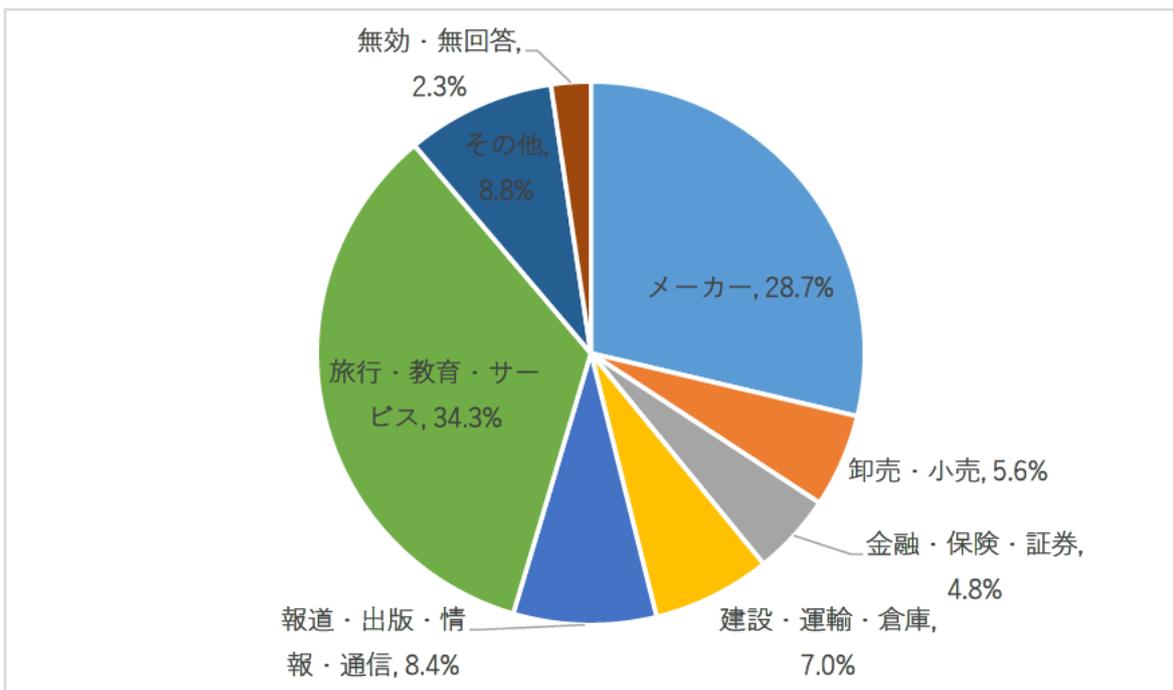
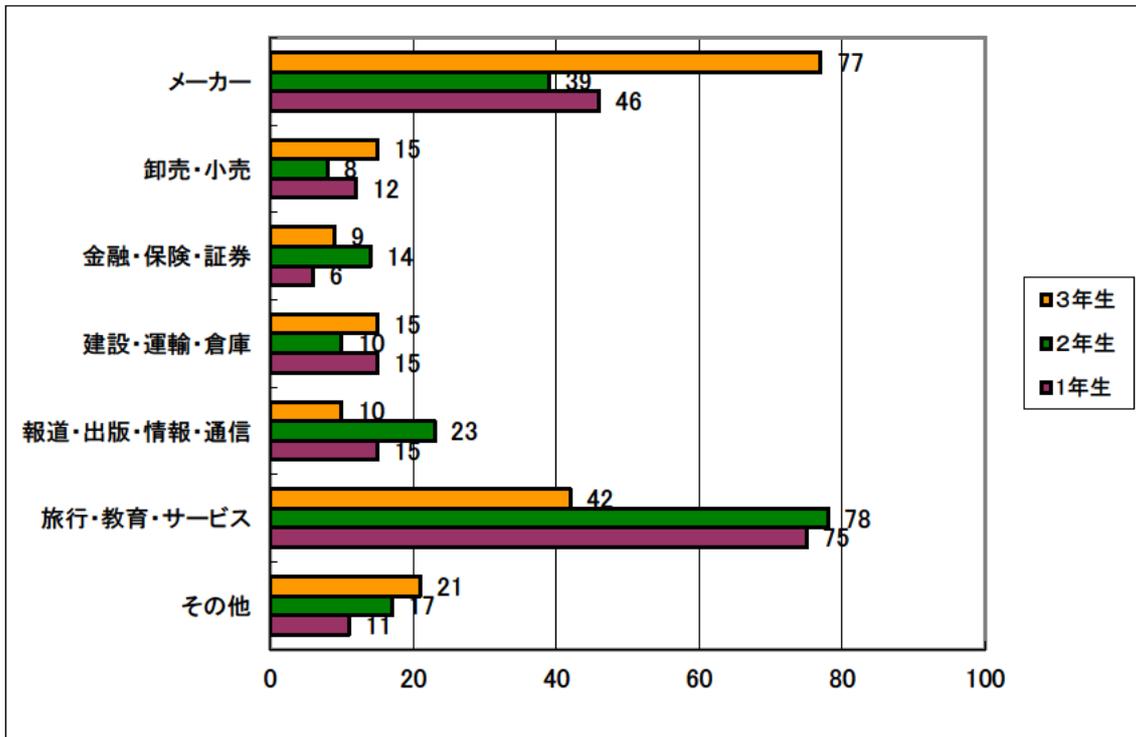


図 2-39：民間希望就職先（学年別）



2.6 個別活動(悩み)

学生生活にかかわる「悩み」や「不安」の有無を質問している。「よく悩む」・「少し悩む」という回答が合計で44.5%あるのに対し、「あまり悩まない」、「全く悩まない」の合計は52.3%である（図2-40）。第2回調査時と比較すると、悩んでいる学生は減少している。相談相手は回答の多い順に、「友人」(50.9%)、「父母」(21.9%)、「相談しない」(19.3%)であり、第2回調査時と比べてほぼ同様の割合である（図2-41）。

図2-40：悩みや不安の有無

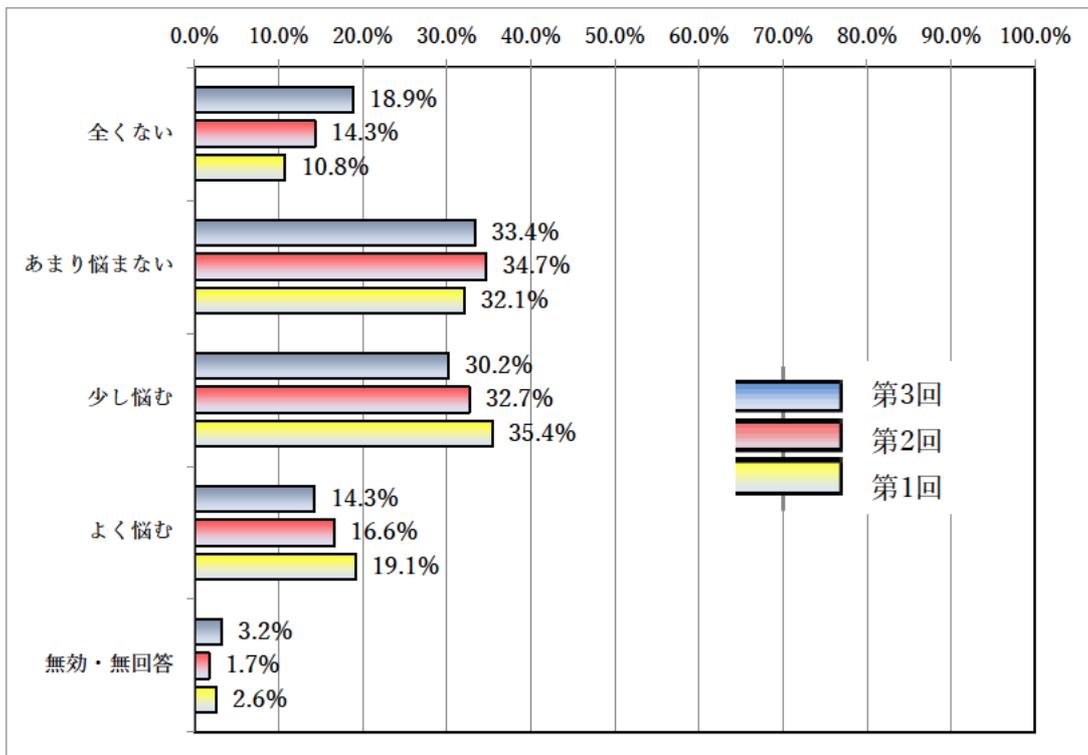
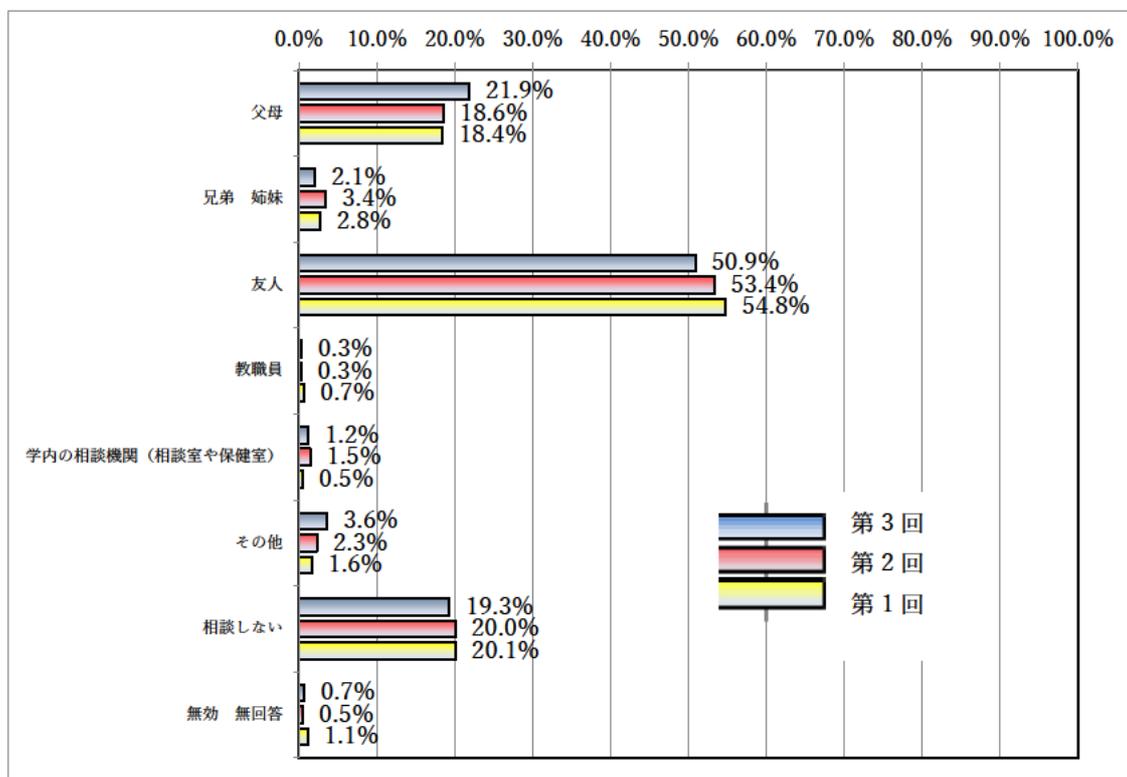


図2-41：悩みや不安の相談相手



2.7 大学への要望・期待について

大学への要望・期待について質問した結果は図2-42の通りであり、「カリキュラムの改革」と「留学支援制度の充実」とが求められていることは第1回、第2回の調査時と同様である。第1回、第2回の調査時と比較すると、「カリキュラムの改革」が増加する一方で、「留学支援制度の充実」は大幅に減少している。

図2-42：大学への要望・期待について

